65_広島大学_教育学部_沿革・設置目的資料

１．沿革　・・・　資料　１

２．設置目的　・・　資料　２

３．広島大学五十年史（通史編）に記載の事項　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　資料　３

４．広島大学二十五年史（通史）に記載の事項　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　資料　４

５．平成２４年度教育学部学生便覧に記載の事項　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　資料　５

６．広島大学教育学部設置計画書（昭和５２年）に記載の事項　・・・・・・・　資料　６

７．広島大学学校教育学部設置計画書（昭和５２年）に記載の事項　・・・・・　資料　７

８．広島大学教育学部設置計画書（平成１１年）に記載の事項　・・・・・・・・　資料　８

広島大学　教育学部　沿革

昭和４(1929)年　官立文理科大学官制（勅令第37号）が公布され、広島文理科大学（広島市東千田町）を設置
広島高等師範学校は広島文理科大学に附置

昭和18(1943)年　師範教育令改正に伴い、広島県師範学校は官立移管され、専門学校程度に昇格し、広島師範学校を設置
広島県師範学校を本部および男子部とし、広島県三原女子師範学校を女子部とする

昭和19(1944)年　師範教育令改正に伴い、広島青年師範学校（高田郡吉田町）を設置

昭和24(1949)年　国立学校設置法（昭和24年法律第150号）により、広島文理科大学（附置研究所を含む)、広島高等学校、広島工業専門学校、広島高等師範学校、広島女子高等師範学校、広島師範学校、広島青年師範学校を包括し、広島市立工業専門学校を併合して広島大学を設置
広島大学発足とともに教育学部（教育学科、心理学科、小学校教育科、中学校教育科、高等学校教育科)、同東雲分校（小学校教育科、中学校教育科)、同三原分校（小学校教育科、中学校教育科)、同安浦分校（昭和25年に移転統合により福山分校を設置。中学校教育科、高等学校教育科）を設置

昭和28(1953)年　東雲分校に盲教育兼修課程を設置

昭和29(1954)年　東雲分校に聾教育兼修課程を設置

昭和30(1955)年　教育学部小学校教育科（４年課程）を東雲分校へ移管

昭和33(1958)年　福山分校に教育専攻科（保健体育専攻）を設置

昭和34(1959)年　中学校教育科図画工作科を４年課程に昇格（昭和37年美術科に改称)

昭和35(1960)年　東雲分校の特殊教育（盲・聾教育兼修）課程を４年課程に昇格とともに養護学校教育兼修課程を設置
中学校教育職業科を福山分校より東雲分校へ移管（昭和37年技術科に改称)

昭和36(1961)年　教育学部中学校教育科（４年課程：国語・社会・数学・理科・英語）を東雲分校へ移管
福山分校の教育専攻科に音楽専攻、家政専攻を増設

昭和37(1962)年　三原分校を東雲分校に統合

昭和39(1964)年　東雲分校の小・中・盲・聾・養護の各教育科並びに教育学部と福山分校の高等学校教育科が、それぞれ教員養成課程と改称

昭和41(1966)年　附属幼年教育研究施設（幼児教育学部門）を設置

昭和42(1967)年　中学校教員養成課程の音楽・体育・家政を福山分校より東雲分校へ移管

昭和45(1970)年　東雲分校に教育専攻科を設置

昭和46(1971)年　附属幼年教育研究施設に幼児心理学部門を増設

昭和48(1973)年　東雲分校に特殊教育特別専攻科を設置

昭和53(1978)年　教育学部を３学科１３大講座に改組・再編及び東雲分校を廃止し学校教育学部を設置

昭和61(1986)年　教育学部に日本語教育学科を設置

昭和63(1988)年　学校教育学部に附属教育実践研究指導センターを設置

平成元(1989)年　教育学部及び教育学部福山分校が東広島市統合移転地に移転完了し、福山分校を廃止

平成７(1995)年　学校教育学部が東広島市統合移転地に移転完了
学校教育学部に附属障害児教育実践センターを設置

平成８(1996)年　学校教育学部附属教育実践研究指導センターを改組し、教育実践総合センターを設置

平成12(2000)年　教育学部と学校教育学部を統合し、教育学部に改組

平成13(2001)年　大学院教育学研究科の整備に伴い、大学院講座化

平成14(2002)年　学部附属施設の研究科附属施設への移行（附属幼年教育研究施設、附属教育実践総合センター、附属障害児教育実践センター）

平成19(2007)年　学校教育学部を廃止
特殊教育特別専攻科（知的障害教育専攻）を特別支援教育特別専攻科（特別支援教育専攻）に名称変更

広島大学　教育学部　設置目的等

１．設置の経緯

（１）設置当初の教育学部

現在の教育学部の源流は、昭和 24 年５月 31 日、法律第 150 号国立大学設置法により、広島大学が、広島文理科大学（附属研究所を含む。）、広島高等学校、広島工業専門学校、広島高等師範学校、広島女子高等師範学校、広島師範学校及び広島青年師範学校を包括し、広島市立工業専門学校を併合して、６学部（文学部、教育学部、政経学部、理学部、工学部及び水畜産学部）からなる新制総合大学として発足した時点まで遡る。

当初の教育学部は、東千田町に教育学部（本部）、東雲分校、三原分校及び福山分校の３つの分校並びに 11 の附属学校園（うち附属幼稚園は昭和 41 年設置）を擁した全国でも最大規模の学部であった。また、東千田町の教育学部（本部）は、中等学校教員養成にあたってきた広島高等師範学校（明治 35 年創設）の文科・理科、広島文理科大学（昭和４年創設）の教育学科（教育学専攻及び心理学専攻）を母体として、教育学科と心理学科及び高等学校教員養成のための高等学校教育科の３学科で構成されていた。

東雲分校は、明治５年の学制頒布による教員養成所であった白島学校（明治７年創設）に端を発した広島師範学校（昭和 18 年創設）を母体に、三原女子師範学校（明治 42 年創設）を前身とする三原分校とともに、義務教育諸学校の教員を養成する分校として発足した。福山分校は、広島青年師範学校（昭和 19 年創設）と広島女子高等師範学校（昭和 20 年創設）を母体に、高等学校教員養成の高等学校教育科として発足した。

（２）　旧教育学部と学校教育学部

当初２年課程で発足した東雲分校は、昭和 30 年以降逐次４年課程に移管し、小学校教育科、中学校教育科、特殊教育科として次第にその内容の充実が図られた。また、昭和 37 年三原分校は東雲分校に統合された。昭和 38 年教員養成大学・学部に「課程」を置く規程が制定され、昭和 39 年高等学校教育科は高等学校教員養成課程と改称され、東雲分校では、各教育科が小学校教員養成課程、中学校教員養成課程、盲・聾・養護各教員養成課程に改称された。昭和 41 年附属幼年教育研究施設が、昭和 48 年東雲分校に特殊教育特別専攻科が、それぞれ設置された。

当初の教育学部は、昭和 53 年に改組され、東千田町の教育学部本部と福山分校を統合して教育学部となり、東雲分校は独立学部となり学校教育学部が設置された。

これに伴い、教育学部は従来の小講座を再編し、教育学科（教育哲学・教育史学、教育社会学・教育方法学及び教育行政学の３大講座）、心理学科（実験心理学と教育心理学の２大講座）に加え、高等学校教員養成課程が教科教育学科（国語、英語、社会科、数学、理科、音楽、体育、家政各教育学の８大講座、うち音楽、体育、家政各教育学は福山分校）となって、３学科体制の学部となった。さらに、昭和 61 年日本語教育学科（日本語教育学、日本語学、言語学及び日本文化学の４大講座）を増設し、４学科 17 大講座となった。平成元年９月、教育学部と教育学部福山分校が東広島市に統合移転を完了した。

学校教育学部は、義務教育諸学校の教員養成を目的とした学部となり、昭和 63 年教育実践研究指導センターを設置した。広島大学の統合移転に伴い平成７年３月東広島市に移転した。同年障害児教育実践センターを設置し、平成８年教育実践指導センターは教育実践総合セン

ターに改組された。

（３）教育学部の改組・統合と大学院講座化

平成９年の統合移転完了から４年後の平成 12 年４月、従来の教育学部と学校教育学部を改組・統合し、教育組織と教官組織を一新し現在の教育学部が発足した。更に、平成 13 年４月には大学院教育学研究科の整備に伴い、学部所属の教官組織である 16 大講座が大学院の講座となり、大学院講座所属の教官が学部教育を併任して担当するという形を取ることとなった。

２．理念・目標

科学技術の飛躍的進歩や高度情報化、国際化、さらには少子・高齢化など、地球的規模で進行している大きな変化の流れの中にあって、人類の平和的共存や自然と人間との豊かな共生は、21 世紀の最も重要な課題である。この課題に応えるために、「教育」という営みはかつてないほど重要になっている。

平成 12 年４月に発足した教育学部は、「教育」や「学び」という人類に普遍の営みを専門的に学習することが、21 世紀の地球的課題を「学ぶ」ことにつながるという理念の下、学生のみならず教職員を含む全ての構成員が、幅広い社会的視野と豊かな課題探究能力を培うことを目標としている。

この理念・目標実現のため、教育学部は、旧教育学部と学校教育学部がこれまで行ってきた教育研究の成果と特色を活かしながら、社会の変化とともに多様化する教育諸課題を理論と実践の統合化によって、学際的・総合的視点から探究するとともに、21 世紀にふさわしい学校教育の創造と生涯学習社会構築への貢献をめざして、小学校から高等学校までの教員のみならず、生涯学習社会の幅広い職業分野で活躍できる人材の育成に努めている。

資料３

広島大学五十年史

通史編

大正十五年四月には、外国人留学生の学力補充を目的に特設予科が設置された。修業年限一年で、「満州国」・中華民国出身者が多数であった。

七　広島文理科大学に附置

大正中期には、高等教育機関拡張政策が展開された。これによって、各専門学校では大学昇格運動が展開されたが、高等師範学校においても大学昇格運動が起こされた。この結果、昭和四（一九二九）年四月一日に東京と広島に文理科大学が設置された。これにともない、広島高師は広島文理科大学に附置された。

第二節　広島文理科大学

一　大学設置

大正四（一九一五）年、広島県会は広島県に中国帝国大学を設置する発議書を可決し、国へ要望したが実現することはなかった。広島高等師範学校の大学昇格運動が起こると、広島県も賛同したが、これはまず高等師範学校を大学にし、さらに帝国大学にすることを目指すものであった。

大正十二年の第四六回帝国議会において、広島文理科大学設置案を含む予算案が可決された。しかし、同年九月に関東大震災が起こったため、文理科大学などの新設大学の開設は延期された。

昭和四（一九二九）年四月一日、官立文理科大学官制（勅令第三七号）が公布・施行され、東京文理科大学と広島

文理科大学が設置された。高等師範学校の大学昇格運動の過程では、「師範大学」「教育大学」構想が関係者の間では有力であった。しかし、実際には「師範教育令」に規定された高等師範学校の大学昇格ではなく、「大学令」第二条の「特別ノ必要アル場合ニ於テ実質及規模一学部ヲ構成スルニ適スルトキハ前項ノ学部ヲ分合シテ学部ヲ設クルコトヲ得」を利用して文科理科両学部をあわせての一単科大学である「文理科大学」の新設であった（船寄俊雄『近代日本中等教員養成論争史論―「大学における教員養成」原則の歴史的研究―』学文社、平成十年）。

二　学科編成と入学者

官立文理科大学官制と同日に、広島文理科大学学則が制定された。学科は、教育学科（教育学専攻・心理学専攻）、哲学科（哲学哲学史専攻・倫理学専攻）、史学科（国史学専攻・東洋史学専攻・西洋史学専攻）、文学科（国語学国文学専攻・漢文学専攻・英語学英文学専攻）、数学科（数学専攻）、物理学科（物理学専攻）、化学科（化学専攻）、生物学科（動物学専攻・生物学専攻）、地学科（地理学専攻・地質鉱物学専攻）の九学科一七専攻であった。ただし、

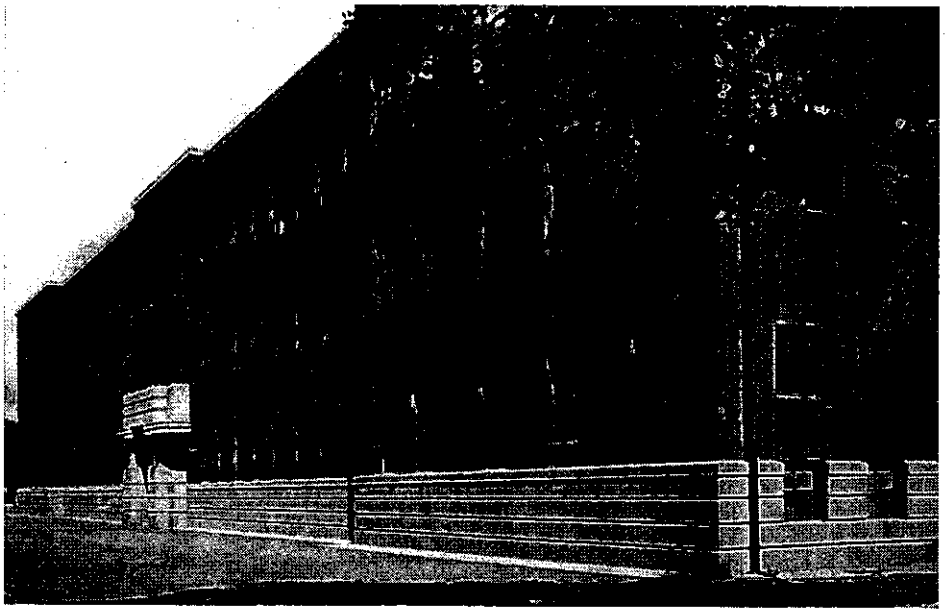


写真1-1-2　広島文理科大学　（昭和６年）

七　官立広島師範学校

昭和十八（一九四三）年三月八日、師範教育令が改正され、師範学校は官立となり、本科三年予科二年の専門学校程度とされた。これによって、四月一日、広島県師範学校は官立移管され、専門学校程度に昇格した。旧来の広島県師範学校を本部および男子部とし、広島県三原女子師範学校を女子部とした。

第七節　広島青年師範学校

一　広島県実業補習学校教員養成所

大正九（一九二〇）年、一般勤労青少年に対する補習教育を目的とした実業補習学校の専任教員を養成するため、実業補習学校教員養成所令が公布された。広島県では、大正十一年三月二十五日、広島県実業補習学校教員養成所設置開校について文部大臣より認可され、四月一日に広島県実業補習学校教員養成所が広島県立西条農学校（賀茂郡西条町）に併置された。

二　広島県立青年学校教員養成所

昭和十（一九三五）年四月一日、青年学校教員養成所令が公布、青年学校教員養成所規程が制定され、実業・公民

教育を目的とする実業補習学校と軍事訓練を目的とする青年訓練所とが統合されて、青年学校が成立した。これにともなって、広島県実業補習学校教員養成所は広島県立青年学校教員養成所と改称された。

青年学校教員養成所は、開設時には独立の建物を持っていなかった。そのため、独立移転が検討されるようになり、高田郡吉田町に移転することになった。敷地・実習地は吉田町が県に寄付し、昭和十四年八月三十一日に、広島県立青年学校教員養成所は県立西条農学校から吉田町に独立移転した。

三　官立青年師範学校

昭和十八（一九四三）年の師範教育令改正により、官立師範学校が発足していたが、それに続いて昭和十九年二月十七日に師範教育令が改正され、官立青年師範学校が成立した。これによって、従来の青年学校教員養成所は国に移管され、師範学校と同じく専門学校程度に昇格した。広島県立青年学校教員養成所は三月三十一日をもって廃止され、四月一日に官立の広島青年師範学校が設置された。男子部農業科と女子部が置かれた。

写真1-1-8　広島青年師範学校　（昭和19年）

第二章　広島大学の開学

第一節　広島大学の開学理念

一　広島大学の設置認可

昭和二十三（一九四八）年七月二十五日付で「国立広島綜合大学設置申請書」が文部省に提出された。設置申請書は、文学部、理学部、教育学部、政経学部、工学部、水畜産学部の六学部からなり、医学部と女子部の設置については別途申請することとされた。このうち、広島軍政部の強い要望があった医学部については、設置申請書と同日付で文部省に追申請がおこなわれた。他方、女子部については、広島県が女子高等教育機関を設置する構想を有していたため、削除された。

広島に国立大学を設置することに対する県民の関心は高く、県民の要望により設置された組織もあった。勤労者の高等教育機会拡大を望む県民の要望のもと、県下の高等学校関係者を中心に国立広島大学夜間学部設置促進連合会が結成され、昭和二十五年度に政経学部第二部の設置申請がおこなわれた。このほかに、工学部建築学科の設置（昭和三十六年度）や、安芸門徒を中心とする仏教関係者による仏教学講座設置要求（昭和四十七年、文学部インド哲学講座）等も県民の要望を反映したものであった。

昭和二十四年三月十六日、大学設置委員会総会における全会一致の賛成投票により、広島大学の設置が決定。国立学校設置法（法律第一五〇号）および「新制国立大学設置について」にもとづいて、広島文理科大学、広島高等学校、

広島工業専門学校、広島高等師範学校、広島女子高等師範学校、広島師範学校および広島青年師範学校を包括し、広島市立工業専門学校を併合した広島大学が設置された。

認可された学部学科は、政経学部（政経学科）、文学部（哲学科、史学科、文学科）、理学部（数学科、物理学科、化学科、生物学科、地学科）、工学部（機械工学科、電気工学科、工業化学科、醗酵工学科、船舶工学科、土木工学科、工業経営学科）、水畜産学部（漁業学科、水産生物学科、畜産学科）、教育学部（教育学科、心理学科、四年制、二年制）であったが、設置条件として、①校舎の復旧拡張と教室・研究室等の整備、②専門図書の充実、③教育学部・水畜産学部の研究施設等の整備、④教養科目中の語学・社会科学関係担当専任教官の補充、⑤教育学部、政経学部、工学部工業経営学科の専任教官補充、⑥政経学部の一学部一学科、⑦上記の報告義務等、が付された（資料編三〇）。

包括校のうち、広島市立工業専門学校の国立移管については、官立学校を対象として大学整備をおこなう文部省の方針と合わずに難航したものの、九月二十二日付で文部省大学学術局長より移管承認通知により認められ、併合手続きも軌道に乗ること

写真2-2-1 「国立広島綜合大学設置申請書」

第三章　組織の整備

第一節　新制広島大学の組織・施設整備

一　学部の整備

1　文学部

文学部は、哲学・史学・文学の三学科で発足した。哲学科の講座は、哲学第一・第二、中国哲学第一・第二、倫理学第一・第二の六講座、史学科の講座は、国史学第一・第二、東洋史学第一・第二、西洋史学第一・第二、地理学第一・第二の八講座、文学科の講座は、国語学国文学第一・第二・第三、中国文学第一・第二、英語学英文学第一・第二・第三の八講座と独逸文学・仏蘭西文学・言語学の三学科目であった。その後昭和二十六（一九五一）年に独逸文学をドイツ文学、仏蘭西文学をフランス文学と改称した。

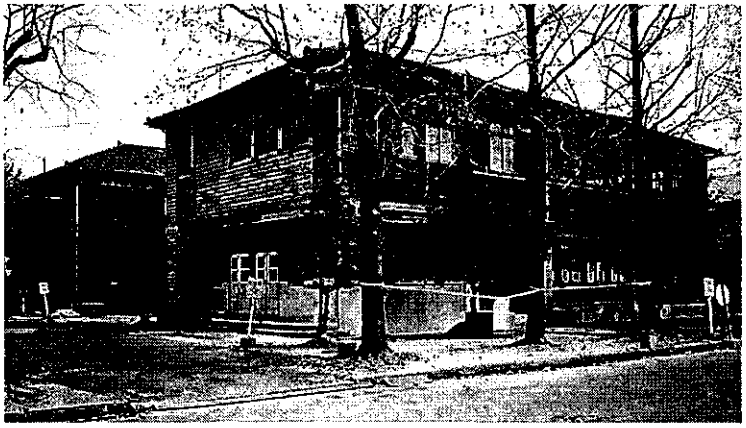


写真2-3-1　文学部木造校舎　（平成６年）

2　教育学部

教育学部（分校を除く）は、教育学科・心理学科の二学科、小学校教育科（四年課程）・中学校教育科（四年課程）・高等学校教育科（四年課程）の三教育科で発足した。当初は学科目であった。

昭和二十九年九月に公布された国立大学の講座に関する省令では、次のとおりナンバー講座で構成された（カッコ内には昭和三十九年の省令以降の名称を付した）。教育学科は、教育学第一（教育哲学）、教育学第二（日本東洋教育史）、教育学第三（西洋教育史）、教育学第四（教育社会学）、教育学第五（教育方法学）、教育学第六（国語科教育及び英語科教育）、教育学第七（社会科教育）、教育学第八（数学科教育及び理科教育）、教育学第九（教育行財政学）、教育学第一〇（比較教育制度学）、教育学第一一（教育経営学）の一一講座、心理学科は、心理学第一（実験心理学）、心理学第二（集団心理学）、心理学第三（教育心理学）、心理学第四（発達心理学）、心理学第五（学習心理学）の五講座となった。

3　教育学部東雲分校

教育学部東雲分校は、二年課程の小学校教育科・中学校教育科の二教育科で発足した。その後昭和二十六年度に、特殊教育科（二年課程）が設置された。

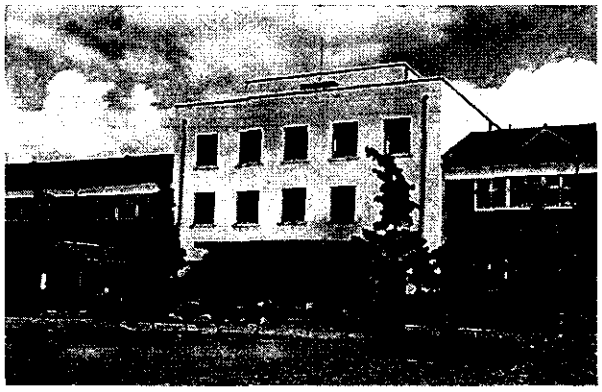


写真2-3-3　教育学部東雲分校

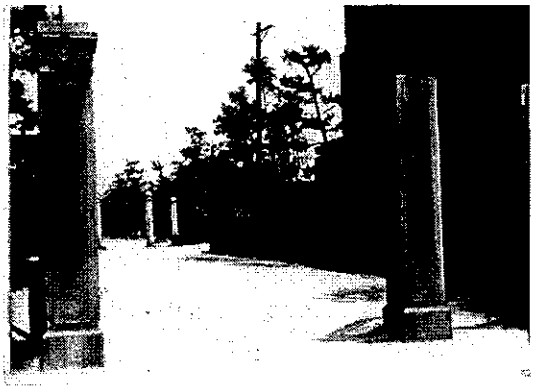


写真2-3-2　教育学部

4　教育学部三原分校

教育学部三原分校は、二年課程の小学校教育科・中学校教育科の二教育科で発足した。

5　教育学部福山分校

広島大学発足時には教育学部安浦分校が存在し、福山市にあるキャンパスは安浦分校福山教場と呼称されていた。昭和二十五年五月に安浦分校を福山市に移転統合したため、教育学部福山分校が成立した。体育科は同年十一月まで安浦町に存置されていたので、この間福山分校安浦教場が存在した。

福山分校（安浦分校）には、四年課程の中等学校教育科・高等学校教育科と二年課程の中等学校教育科が置かれた。

6　政経学部

政経学部は、設置認可申請段階では社会政治科と国際経済科の二学科であったが、認可の段階で政治経済学科一学科となった。学科目は、第一（社会学）・第

写真2-3-5　教育学部福山分校

写真2-3-4　教育学部三原分校

資料４

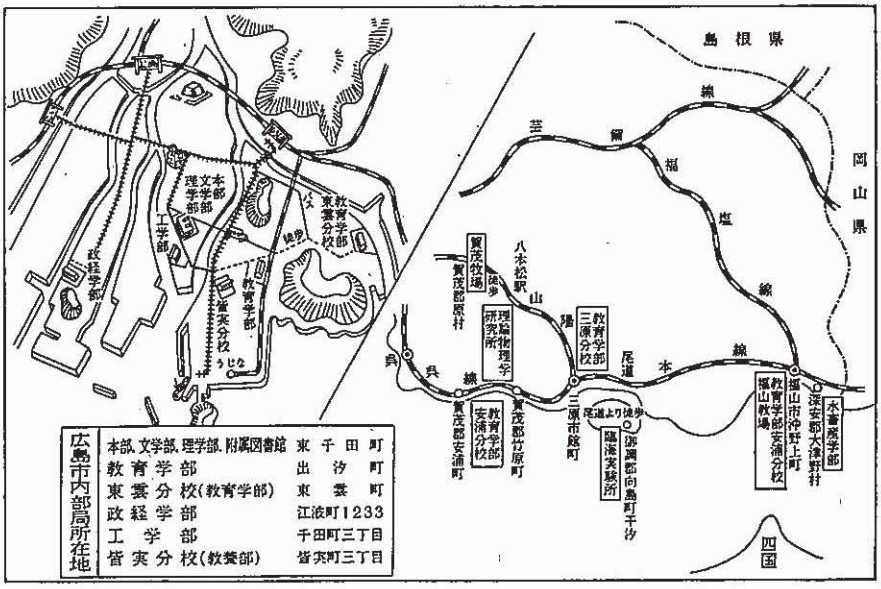
広島大学二十五年史

通史

表2-1　発足時の大学の組織と所在地

部局	附属施設	所在地
本部		広島市東千田町
文学部		広島市東千田町
教育学部		広島市出汐町
教育学部東雲分校		広島市東雲町
教育学部三原分校		三原市館町
教育学部安浦分校		賀茂郡安浦町
(福山教場)		福山市沖野上町
政経学部		広島市江波町
理学部		広島市東千田町
	附属臨海実験所	御調郡向島町
工学部		広島市千田町
水畜産学部		福山市沖野上町
	大津野実験牧場	深安郡大津野村
	川口農場	福山市川口町
	賀茂牧場	賀茂郡原村
皆実分校(教養部)		広島市皆実町
理論物理学研究所		賀茂郡竹原町
附属図書館		広島市東千田町

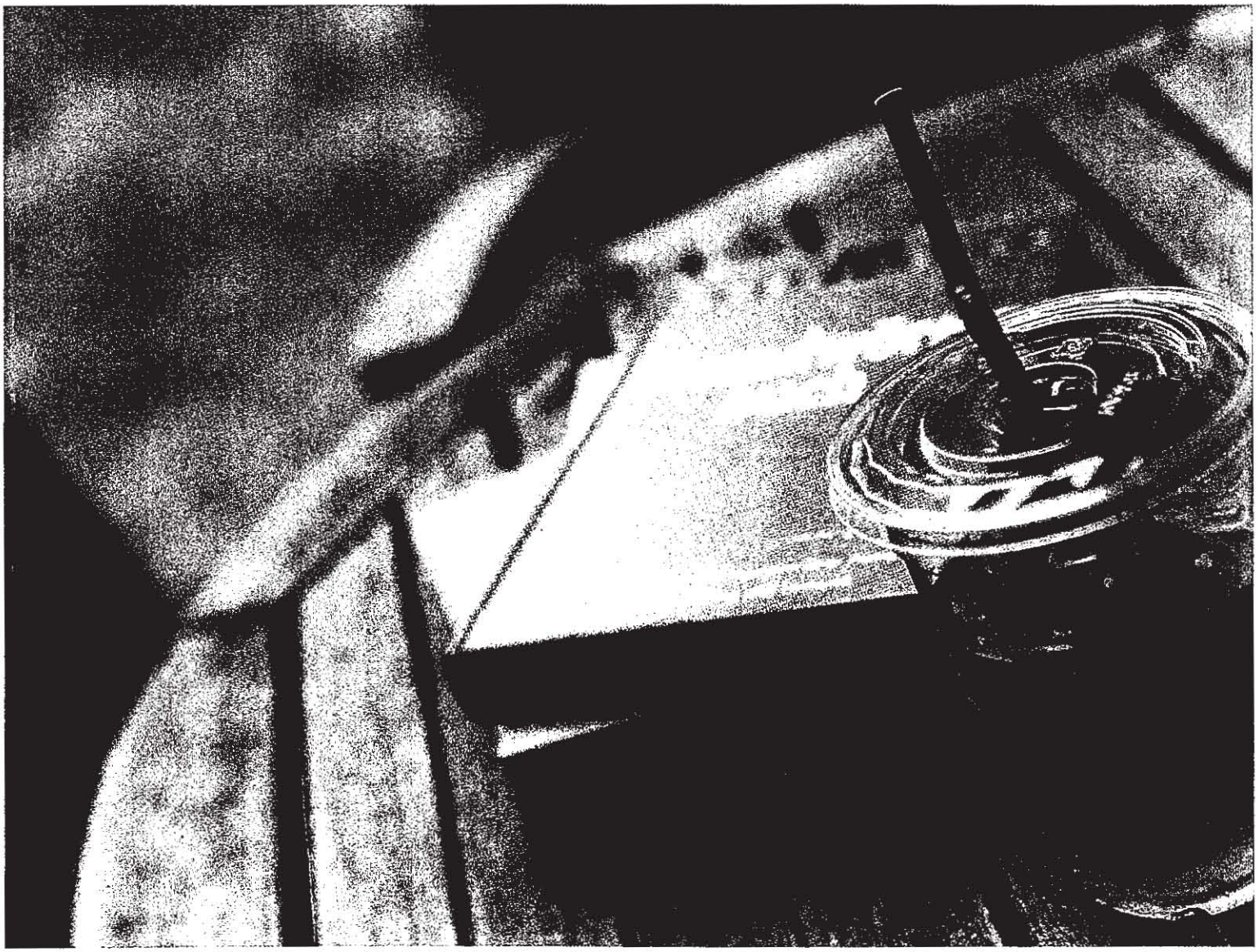
図2-1　広島大学位置図



資料５

平成24年度 学生便覧

教育学部
特別支援教育特別専攻科
FACULTY OF EDUCATION
HIROSHIMA UNIVERSITY 2012



広島大学

１６　教育学部の沿革と特色

１　教育学部の理念・目標

科学技術の飛躍的進歩や高度情報化，国際化，さらには少子・高齢化など，地球的規模で進行している大きな変化の流れの中にあって，人類の平和的共存や自然と人間との豊かな共生は，２１世紀の最も重要な課題である。この課題に応えるために，「教育」という営みはかつてないほど重要になっている。

平成１２年４月に発足した教育学部は，「教育」や「学び」という人類に普遍の営みを専門的に学習することが，２１世紀の地球的課題を「学ぶ」ことにつながるという理念の下，学生のみならず教職員を含む全ての構成員が，幅広い社会的視野と豊かな課題探究能力を培うことを目標としている。

この理念・目標実現のため，教育学部は，旧教育学部と学校教育学部がこれまで行ってきた教育研究の成果と特色を活かしながら，社会の変化とともに多様化する教育諸課題を理論と実践の統合化によって，学際的・総合的視点から探究するとともに，２１世紀にふさわしい学校教育の創造と生涯学習社会構築への貢献をめざして，小学校から高等学校までの教員のみならず，生涯学習社会の幅広い職業分野で活躍できる人材の育成に努めている。

２　教育学部設置の経緯

（１）設置当初の教育学部

現在の教育学部の源流は，昭和２４年５月３１日，法律第１５０号国立大学設置法により，広島大学が，広島文理科大学（附属研究所を含む。），広島高等学校，広島工業専門学校，広島高等師範学校，広島女子高等師範学校，広島師範学校及び広島青年師範学校を包括し，広島市立工業専門学校を併合して，６学部（文学部，教育学部，政経学部，理学部，工学部及び水畜産学部）からなる新制総合大学として発足した時点まで遡る。

当初の教育学部は，東千田町に教育学部（本部），東雲分校，三原分校及び福山分校の３つの分校並びに１１の附属学校園（うち附属幼稚園は昭和４１年設置）を擁した全国でも最大規模の学部であった。また，東千田町の教育学部（本部）は，中等学校教員養成にあたってきた広島高等師範学校（明治３５年創設）の文科・理科，広島文理科大学（昭和４年創設）の教育学科（教育学専攻及び心理学専攻）を母体として，教育学科と心理学科及び高等学校教員養成のための高等学校教育科の３学科で構成されていた。

東雲分校は，明治５年の学制頒布による教員養成所であった白島学校（明治７年創設）に端を発した広島師範学校（昭和１８年創設）を母体に，三原女子師範学校（明治４２年創設）を前身とする三原分校とともに，義務教育諸学校の教員を養成する分校として発足した。福山分校は，広島青年師範学校（昭和１９年創設）と広島女子高等師範学校（昭和２０年創設）を母体に，高等学校教員養成の高等学校教育科として発足した。

（２）旧教育学部と学校教育学部

当初２年課程で発足した東雲分校は，昭和３０年以降逐次４年課程に移管し，小学校教育科，中学校教育科，特殊教育科として次第にその内容の充実が図られた。また，昭和３７年三原分校は東雲分校に統合された。昭和３８年教員養成大学・学部に「課程」を置く規程が制定され，昭和３９年高等学校教育科は高等学校教員養成課程と改称され，東雲分校では，各教育科が小学校教員養成課程，中学校教員養成課程，盲・聾・養護各教員養成課程に改称された。昭和４１年附属幼年教育研究施設が，昭和４８年東雲分校に特殊教育特別専攻科が，それぞれ設置された。

当初の教育学部は，昭和５３年に改組され，東千田町の教育学部本部と福山分校を統合して教育学部となり，東雲分校は独立学部となり学校教育学部が設置された。

これに伴い，教育学部は従来の小講座を再編し，教育学科（教育哲学・教育史学，教育社会学・教育方法学及び教育行政学の３大講座），心理学科（実験心理学と教育心理学の２大講座）に加え，高等学校教員養成課程が教科教育学科（国語，英語，社会科，数学，理科，音楽，体育，家政各教育学の８大講座，うち音楽，体育，家政各教育学は福山分校）となって，３学科体制の学部となった。さらに，昭和６１年日本語教育学科（日本語教育学，日本語学，言語学及び日本文化学の４大講座）を増設し，４学科１７大講座となった。平成元年９月，教育学部と教育学部福山分校が東広島市に統合移転を完了した。

学校教育学部は，義務教育諸学校の教員養成を目的とした学部となり，昭和６３年教育実践研究指導センターを設置した。広島大学の統合移転に伴い平成７年３月東広島市に移転した。同年障害児教育実践センタ

ーを設置し，平成８年教育実践指導センターは教育実践総合センターに改組された。

（3）教育学部の改組・統合と大学院講座化

平成９年の統合移転完了から４年後の平成１２年４月，従来の教育学部と学校教育学部を改組・統合し，教育組織と教官組織を一新し現在の教育学部が発足した。更に，平成１３年４月には大学院教育学研究科の整備に伴い，学部所属の教官組織である１６大講座が大学院の講座となり，大学院講座所属の教官が学部教育を併任して担当するという形を取ることとなった。

3　現在の教育学部とその特色

（1）教育組織の特色

現在の教育学部の教育組織の特色は，類ーコース制によって，専門教育の選択履修の幅を拡大し，学生の学習ニーズや卒業後の幅広い進路に対応できる豊富なカリキュラムを用意し，入学後に，進路に対応した授業科目を学生自身が選択して履修することができることにある。また，希望するコースを選択して受験できるので，学生の目的意識に沿った専門教育を受けることができる。

本学部の５類ー１５コース制は，以下の教育組織から構成されている。小学校，盲学校，聾学校及び養護学校の教員を専門的に養成する第一類（学校教育系）には，初等教育教員養成と特別支援教育教員養成の２コースがある。中学校・高等学校教員を希望する学生には，主に第二類（科学文化教育系），第三類（言語文化教育系）及び第四類（生涯活動教育系）の三類において，卒業要件単位内で希望する校種・教科の一種免許状が取得できるカリキュラムが用意されている。

また，第二類には，自然系，数理系，技術・情報系，社会系の４コースが，第三類には，国語文化系，英語文化系，日本語教育系の３コースが，第四類には，健康スポーツ系，人間生活系，音楽文化系，造形芸術系の４コースがある。これらの内，特に，日本語教育系コースは，外国人の日本語教育を行う人材養成を目的としている。第五類（人間形成基礎系）には，教育に関わる人間形成の基礎学を学ぶことを目的とした教育学系と心理学系の２コースがある。

第二類から第五類では，生涯学習・文化諸施設等での指導者，民間企業における企業内教育の専門家，さらには教員以外の教育関係公務員等を希望する学生に対し，所属コースのみならず他コースや他学部で開設する科目の履修を大幅に認めている。さらに，専門諸科学を深く究明することを希望する場合には，大学院教育学研究科に進学し，高度専門職業人や研究者をめざす道も開かれている。

（2）教員の研究組織と学部教育の特色

教員の研究組織は，大学院所属の１６大講座と学部附属の１研究施設（幼年教育研究施設）３センター（教育実践総合センター，障害児教育実践センター，心理臨床教育研究センター）からなっている。また，学部で開設する授業は，これらの教員組織に所属する全教員が提供する方式をとっており，従来の講座制による狭い教員組織に対応した学部教育となっていない点が，本学部における学部教育の特色である。

4　現在の教育学部と教育学研究科の沿革

昭和 24 年 5 月	広島大学発足とともに教育学部設置
昭和 28 年 4 月	大学院教育学研究科（教育学，教育行政学，実験心理学，教育心理学の４専攻で構成された修士課程，博士課程）設置
昭和 28～29 年	東雲分校に盲・聾教育兼修課程設置
昭和 30 年 4 月	小学校教育科（４年課程）を東千田町地区より東雲分校に移管
昭和 31 年 6 月	教育学部（本部）の建物が東千田町に竣工
昭和 33 年 4 月	福山分校に教育専攻科（保健体育専攻）設置
昭和 34 年 4 月	中学校教育科図画工作科を４年課程に昇格（昭和 37 年美術科に改称）
昭和 35 年 4 月	東雲分校の特殊教育（盲・聾教育兼修）課程を４年課程に昇格とともに養護学校教育兼修課程設置 中学校教育職業科を福山分校より東雲分校に移管（昭和 37 年技術科に改称）
昭和 36 年 4 月	中学校教育科（４年課程：国語・社会・数学・理科・英語）を東千田町地区より東雲分校に移管 福山分校の教育専攻科に音楽専攻，家政専攻増設
昭和 37 年 3 月	三原分校を東雲分校に統合

昭和39年4月	広島大学通則で東雲分校の小・中・盲・聾・養護の各教育科並びに東千田町と福山分校の高等学校教育科が，それぞれ教員養成課程となる。
昭和41年4月	大学院教育学研究科に教科教育学専攻（国語教育，英語科教育，社会科教育，数学科教育，理科教育）の修士課程と博士課程を増設 附属幼年教育研究施設（幼児教育学部門）設置
昭和42年4月	中学校教員養成課程の音楽・体育・家政を福山分校より東雲分校に移管
昭和44年4月	教科教育学専攻に音楽科教育，保健体育科教育，家政科教育（修士課程）を増設
昭和45年4月	東雲分校に教育専攻科設置
昭和46年4月	附属幼年教育研究施設に幼児心理学部門増設
昭和48年4月	東雲分校に特殊教育特別専攻科設置
昭和50年4月	大学院教育学研究科に幼児学専攻（修士課程）増設 大学院教育学研究科に幼児保健学講座（幼児学専攻基幹講座）設置 大学院教育学研究科の教育学，教育行政学，実験心理学，教育心理学及び教科教育学の５専攻を，博士課程（前期，後期）に改組
昭和51年5月	日本語・日本事情講座増設
昭和53年6月	改組により，３学科１３大講座の教育学部（東千田町（本部）と福山分校）再編と学校教育学部（東雲分校）設置
昭和55年4月	大学院学校教育研究科（学校教育・障害児教育・言語教育・社会科教育・理科教育・保健体育の６専攻の修士課程）設置
昭和56年4月	大学院学校教育研究科に数学教育・美術教育２専攻の修士課程増設
昭和57年4月	大学院学校教育研究科に音楽教育専攻（修士課程）増設
昭和60年7月	広島大学外国人留学生日本語研修コース設置
昭和61年4月	教育学部に日本語教育学科設置
昭和63年4月	学校教育学部に附属教育実践研究指導センター設置
平成 元年4月	大学院教育学研究科に幼児学専攻（博士課程）設置
平成 元年5月	福山分校廃止。ただし，学内措置により平成元年９月まで存続。
平成 元年9月	教育学部及び教育学部福山分校が東広島市統合移転地に移転完了
平成 2 年4月	大学院教育学研究科に日本語教育学専攻（修士課程）増設
平成 3 年4月	大学院学校教育研究科に生活科学教育専攻（修士課程）増設
平成 4 年4月	大学院教育学研究科に日本語教育学専攻（博士課程）増設
平成 7 年4月	学校教育学部が東広島市統合移転地に移転完了
平成 7 年4月	学校教育学部に附属障害児教育実践センター設置
平成 8 年5月	学校教育学部附属教育実践研究指導センターを改組し，教育実践総合センター設置
平成 9 年4月	大学院教育学研究科に学習開発専攻（博士課程後期独立専攻）増設 大学院教育学研究科の教育学，教育行政学，実験心理学，教育心理学，教科教育学，日本語教育学，幼児学の７専攻を，教育科学専攻，心理学専攻，教科教育科学専攻，生涯活動教育学専攻，日本言語文化教育学専攻及び幼年期総合科学専攻の６専攻に改組
平成12年4月	教育学部と学校教育学部を統合し，教育学部に改組 大学院教育学研究科（博士課程）と学校教育研究科（修士課程）を改組・統合し大学院教育学研究科を設置
平成13年4月	大学院教育学研究科の整備に伴い，学部所属の１６大講座が大学院所属となる大学院講座化が行われた。
平成14年4月	学部附属施設の研究科附属施設への移行（附属幼年教育研究施設，附属教育実践総合センター，附属障害児教育実践センター）附属心理臨床教育研究センター設置
平成16年4月	国立大学法人広島大学発足
平成19年3月	学校教育学部廃止
平成19年4月	特殊教育特別専攻科（知的障害教育専攻）を特別支援教育特別専攻科（特別支援教育専攻）に名称変更
平成20年4月	附属障害児教育実践センターを附属特別支援教育実践センターに名称変更

資料６

広島大学教育学部設置計画書

昭和５２年１０月１５日

文部大臣　海部俊樹　殿

広島大学長　竹山晴夫

このたび，広島大学教育学部設置のため別紙設置計画書を提出します。

大学等の概要を記載した書類

事　項	記　　入　　欄	備考
名　称	広島大学教育学部	
位　置	広島県広島市東千田町１丁目１番８９号	
目　的	現教育学部のうち、教育学部（東千田）と福山分校は、従来主として教育諸科学に関する基礎的研究と高等学校教員の養成に当たつてきた。さらに、大学院教育学研究科において教科教育学専攻を中心として教科教育学の研究に取組み、その基礎固めと研究成果をあげることにも力を注いできた。 今日、現代社会における教育の果たすべき機能・役割はますます重く、したがつて、その研究の責務は、学校教育と社会教育とを問わず、一層重視され、各専門分野ごとに解決すべき多くの課題をかかえている。 このため、教育諸科学に関する基礎的、臨床的、実践的研究にわたる総合的教育研究体制の確立を目ざして、従来の教育学部（東千田）・福山分校を基礎として新たに教育学科・心理学科・教科教育学科の３学科からなる教育学部に改組する。教育学部は、人間形成にかかわる諸科学の研究、すなわち教育科学の基礎的研究、心理学の基礎的、臨床的研究、教科教育における教授・学習の総合的、実践的研究を推進し、これらの専門分野の研究者・指導者を育成することを目的とする。特に新たに学科として設置する教科教育学科は、従来から大学院研究科で実施してきたものを学部段階にも下ろすもので、教育実践における教科教育の原理・内容・方法の研究及び教科教材内容の開発を主眼とし、教育学・心理学と緊密に連係して関連する専門分野の総合的、臨床的研究及び教育を行おうとするものである。 なお、教育学部は、他学部も含めた教職に関する専門教育も担当する。	

広島大学学校教育学部設置計画書

昭和５２年１０月１５日

文部大臣　海　部　俊　樹　殿

広島大学長　竹　山　晴　夫

このたび，広島大学学校教育学部設置のため別紙設置計画書を提出します。

資料７

大学等の概要を記載した書類

事項	記入欄	備考
名称	広島大学学校教育学部	
位置	広島県広島市東千田町１丁目１番８９号	
目的	（学校教育学部広島県広島市東雲３丁目１番３３号） 現代の科学技術の急速な進展と，現代社会の複雑化に伴う家庭・学校・社会における教育機能の重層化のもとで，計画的かつ組織的な教育としての学校教育はますますその重要性を増し，その課題も著しく高度化し，多様化してきた。かかる状況に照らして，学校教育，とりわけ，義務教育としての小学校・中学校及び障害児関係諸学校の教員が，教師としての専門職にふさわしい諸条件を具備するための教員養成機関を整備充実することが時代の要請である。 この要請に応えて，教育学部東雲分校（小学校・中学校・盲学校・聾学校・養護学校の各教員養成課程）を教育学部より分離独立させ，学校教育学部を設置する。学校教育学部は，専門的な諸科学の分化と発展を教員養成に焦点化し，義務教育関係諸学校などの教育内容と方法を実践的に研究するとともに，その研究の成果に基づく教育を行い，それによって，高度な専門性を持つとともに，創造性豊かで，広い視野と見識を具え，かつ，教師としての使命感に燃えた教員の養成を行うことを目的とする。	

資料８

広島大学教育学部
設置計画書

平成１１年７月３０日

文部大臣殿

広島大学長　原田康夫

このたび，広島大学教育学部を設置したいので，別紙設置計画書を提出します。

大学等の概要を記載した書類

事　項	記　　入　　欄	備　　考
設置者	広島大学（国）	
名　称	広島大学	
位　置	広島県東広島市鏡山一丁目３番２号	
目　的	科学技術の飛躍的進歩や高度情報化，さらには急速に進展する国際化や生涯学習社会化等，人間を取り巻く諸環境は，地球的規模で急激に変化している。こうした変化の中にあって，初等から高等教育までの教育改革の推進が国家的課題になってきている。また，学校教育については，いじめや不登校，学級崩壊，校内暴力等の緊急な解決とともに，「生きる力」の育成が，２１世紀初頭の極めて重要な学校教育課題になっている。 こうした諸課題に対応するためには，教育諸科学研究における理論的研究と実践的研究の統合化を推進し，生涯発達及び学校教育と生涯学習とのつながりを視座においた初等から中等学校までを一貫した教員養成及び幅広い教育関係分野で活躍できる人材養成が不可欠である。 本学部は，教育諸科学分野における理論的研究と実践的研究の統合化を推進し，幅広い社会的視野と高度な実践的指導力を有する初等から中等学校までの教員養成及び社会的ニーズに対応した幅広い教育関係職に従事できる人材の養成を目的として設置するものである。	

学部等の名称	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設の時期及び開設年次	所在地	
	（計画分）	年	人	年次 人	人				平成１２年４月から教育学部及び学校教育学部の学生募集を停止（Δ685）し，在学生の卒業を待って廃止
	教育学部 第１類 （学校教育系）	4	１８０	－	７２０	学士（教育学） 学士（心理学）	平成１２年 ４月１日 第１年次	広島県東広島市鏡山一丁目１番１号	入学定員振替 教育学部 教育学科　Δ35 心理学科　Δ30 教科教育学科　Δ230 日本語教育学科　Δ40 学校教育学部 小学校教員養成課程 中学校教員養成課程 盲学校教員養成課程 聾学校教員養成課程 養護学校教員養成課程 Δ190
	第２類 （科学文化教育系）	4	１００	－	４００	〃	〃	〃	
	第３類 （言語文化教育系）	4	９０	－	３６０	〃	〃	〃	
	第４類 （生涯活動教育系）	4	１００	－	４００	〃	〃	〃	
	第５類 （人間形成基礎系）	4	５５	－	２２０	〃	〃	〃	

65_広島大学_教育学研究科_沿革・設置目的資料

１．沿革 ･･･ 資料　１

２．設置目的 ･･･ 資料　２

３．平成２４年度教育学研究科学生便覧に記載の事項 ･････････････ 資料　３

４．広島大学大学院教育学研究科設置計画書に記載の事項 ･････････ 資料　４

広島大学　教育学研究科　沿革

昭和28(1953)年　大学院教育学研究科（教育学、教育行政学、実験心理学、教育心理学の４専攻（修士課程、博士課程））を設置

昭和41(1966)年　大学院教育学研究科に教科教育学専攻（国語科教育、英語科教育、社会科教育、数学科教育、理科教育）（修士課程、博士課程）を増設

昭和44(1969)年　教科教育学専攻に音楽科教育、保健体育科教育、家政科教育（修士課程）を増設

昭和50(1975)年　大学院教育学研究科に幼児学専攻（修士課程）を増設
大学院教育学研究科の教育学、教育行政学、実験心理学、教育心理学及び教科教育学の５専攻を博士課程（前期、後期）に改組

昭和55(1980)年　大学院学校教育研究科（学校教育・障害児教育・言語教育・社会科教育・理科教育・保健体育の６専攻（修士課程））を設置

昭和56(1981)年　大学院学校教育研究科に数学教育・美術教育の２専攻（修士課程）を増設

昭和57(1982)年　大学院学校教育研究科に音楽教育専攻（修士課程）を増設

平成元(1989)年　大学院教育学研究科に幼児学専攻（博士課程）を設置
大学院教育学研究科が東広島市統合移転地に移転完了

平成２(1990)年　大学院教育学研究科に日本語教育学専攻(修士課程)を増設

平成３(1991)年　大学院学校教育研究科に生活科学教育専攻(修士課程)を増設

平成４(1992)年　大学院教育学研究科に日本語教育学専攻（博士課程）を増設

平成７(1995)年　大学院学校教育研究科が東広島市統合移転地に移転完了

平成９(1997)年　大学院教育学研究科に学習開発専攻（博士課程後期独立専攻）を増設
大学院教育学研究科の教育学、教育行政学、実験心理学、教育心理学、教科教育学、日本語教育学、幼児学の７専攻を、教育科学専攻、心理学専攻、教科教育科学専攻、生涯活動教育学専攻、日本言語文化教育学専攻及び幼年期総合科学専攻の６専攻（博士課程前期・後期）に改組

平成12(2000)年　大学院教育学研究科（博士課程）と学校教育研究科（修士課程）を改組・統合し大学院教育学研究科（博士課程）を設置し、博士課程前期として学習科学専攻、障害児教育学専攻、科学文化教育学専攻、言語文化教育学専攻、生涯活動教育学専攻、教育学専攻、心理学専攻、高等教育開発専攻、博士課程後期として学習開発専攻、文化教育開発専攻、教育人間科学専攻を設置

平成13(2001)年　大学院教育学研究科の整備に伴い、大学院講座化

平成14(2002)年　大学院学校教育研究科を廃止
学部附属施設の研究科附属施設への移行（附属幼年教育研究施設、附属教育実践総合センター、附属障害児教育実践センター）
附属心理臨床教育研究センターを設置

平成20(2008)年　障害児教育学専攻を特別支援教育学専攻に名称変更
附属障害児教育実践センターを附属特別支援教育実践センターに名称変更

広島大学　教育学研究科　設置目的等

１．設置の経緯

本大学院教育学研究科の起源は、昭和 24 年に設置された新制広島大学の教育学部を基礎として昭和 28 年に設置された大学院旧教育学研究科に遡る。旧教育学研究科には、教育学、教育行政学、実験心理学、教育心理学の４専攻の修士課程、博士課程が置かれた。また、当初、教科教育は教育学専攻の中に修士課程として位置づけられた。

昭和 41 年大学院教育学研究科に教科教育学専攻（国語科教育、英語科教育、社会科教育、数学科教育、理科教育）の修士課程と博士課程が増設された。さらに、昭和 44 年大学院教育学研究科の教科教育学専攻に音楽科教育、保健体育科教育、家政科教育の修士課程が増設された。

昭和 50 年大学院教育学研究科に幼児学専攻の修士課程が増設されると同時に、教育学、教育行政学、実験心理学、教育心理学及び教科教育学の５専攻を、博士課程（前期、後期）に改組した。

昭和 53 年に教育学部から分離独立した学校教育学部を基礎として、昭和 55 年に大学院学校教育研究科が設置された。この時点では、学校教育、障害児教育、言語教育、社会科教育、理科教育、保健体育専攻の修士課程が認可された。昭和 56 年に同研究科に数学教育と美術教育の各専攻、昭和 57 年に音楽教育専攻、平成３年に生活科学教育専攻のそれぞれに、修士課程が逐次増設された。

平成元年大学院教育学研究科の幼児学専攻に博士課程が設置された。さらに、昭和 61 年に教育学部に設置された日本語教育学科を基礎として、平成２年大学院教育学研究科に日本語教育学専攻修士課程が増設され、学年進行に伴い平成４年大学院教育学研究科日本語教育学専攻に博士課程が増設された。

平成９年大学院教育学研究科に後期独立専攻の学習開発専攻が増設された。学習開発専攻は、教育学部に学習開発専攻基幹講座として学習開発基礎講座が設置され、学校教育学部の一部教官より構成された学習開発専攻協力講座との２講座体制で発足し、旧教育学部と学校教育学部に研究科レベルでの連携体制が形成された。学習開発専攻の設置と同時に、大学院教育学研究科の教育学、教育行政学、実験心理学、教育心理学、教科教育学、日本語教育学、幼児学の７専攻を、教育科学専攻、心理学専攻、教科教育科学専攻、生涯活動教育学専攻、日本言語文化教育学専攻及び幼年期総合科学専攻の６専攻に改組した。

平成 12 年４月、博士課程を持つ大学院教育学研究科と修士課程の大学院学校教育研究科を改組・統合して、前期課程８専攻後期課程３専攻よりなる大学院教育学研究科が設置された。更に、平成 13 年４月には大学院の整備に伴い、学部所属の教官組織である 16 大講座を大学院に移す大学院講座化が行われた。

２．理念・目標

平成 12 年４月に設置された大学院教育学研究科は、以下の理念・目標（（１）、（２）、（３））の下に、21 世紀教育の担い手である実践的な指導力を持つ質の高い教員をはじめとする幅広い教育関係分野で活躍できる高度専門職業人の養成、教育学研究分野において高度な学識を有する研究者の養成を目的としている。さらに、教育学研究科は、教育学を横軸に据え、諸文化・諸科学を縦軸に置いて統合を図り、教員養成から教育の基礎学に至る幅広い教育・研究が可能な、我が国の教育学研究分野の大学院モデルとなることをめざしている。

（１）　「学び」という人間の本質的な営みを鍵概念として、豊かな生涯学習社会を導く教育諸科学の先端的研究を推進する。

（２）　理論的研究と実践的研究を統合することによって、２１世紀を切り開く新たな教育諸科学の学問体系を構築する。

（３）　幼児から老年にいたるまでの教育、学習、人間発達等にかかわる諸課題を総合的・学際的に研究し、現代社会のニーズに応える。

資料３

平成24年度 学生便覧

教育学研究科
GRADUATE SCHOOL OF EDUCATION
HIROSHIMA UNIVERSITY 2012

広島大学大学院

１９　教育学研究科の沿革と特色

１　教育学研究科の理念・目標

平成１２年４月に設置された大学院教育学研究科は，以下の理念・目標の下に，２１世紀教育の担い手である実践的な指導力を持つ質の高い教員をはじめとする幅広い教育関係分野で　活躍できる高度専門職業人の養成，教育学研究分野において高度な学識を有する研究者の養　成を目的としている。さらに，教育学研究科は，教育学を横軸に据え，諸文化・諸科学を縦　軸に置いて統合を図り，教員養成から教育の基礎学に至る幅広い教育・研究が可能な，我が　国の教育学研究分野の大学院モデルとなることをめざしている。

(1)　「学び」という人間の本質的な営みを鍵概念として，豊かな生涯学習社会を導く教育諸科学の先端的研究を推進する。

(2) 理論的研究と実践的研究を統合することによって，２１世紀を切り開く新たな教育諸科学の学問体系を構築する。

(3) 幼児から老年にいたるまでの教育，学習，人間発達等にかかわる諸課題を総合的・学際的に研究し，現代社会のニーズに応える。

２　教育学研究科の改組経緯

本大学院教育学研究科の起源は，昭和２４年に設置された新制広島大学の教育学部を基礎として昭和２８年に設置された大学院旧教育学研究科に遡る。旧教育学研究科には，教育学，教育行政学，実験心理学，教育心理学の４専攻の修士課程，博士課程が置かれた。また，当初，教科教育は教育学専攻の中に修士課程として位置づけられた。

昭和４１年大学院教育学研究科に教科教育学専攻（国語科教育，英語科教育，社会科教育，数学科教育，理科教育）の修士課程と博士課程が増設された。さらに，昭和４４年大学院教育学研究科の教科教育学専攻に音楽科教育，保健体育科教育，家政科教育の修士課程が増設された。

昭和５０年大学院教育学研究科に幼児学専攻の修士課程が増設されると同時に，教育学，教育行政学，実験心理学，教育心理学及び教科教育学の５専攻を，博士課程（前期，後期）に改組した。

昭和５３年に教育学部から分離独立した学校教育学部を基礎として，昭和５５年に大学院学校教育研究科が設置された。この時点では，学校教育，障害児教育，言語教育，社会科教育，理科教育，保健体育専攻の修士課程が認可された。昭和５６年に同研究科に数学教育と美術教育の各専攻，昭和５７年に音楽教育専攻，平成３年に生活科学教育専攻のそれぞれに，修士課程が逐次増設された。

平成元年大学院教育学研究科の幼児学専攻に博士課程が設置された。さらに，昭和６１年に教育学部に設置された日本語教育学科を基礎として，平成２年大学院教育学研究科に日本語教育学専攻修士課程が増設され，学年進行に伴い平成４年大学院教育学研究科日本語教育学専攻に博士課程が増設された。

平成９年大学院教育学研究科に後期独立専攻の学習開発専攻が増設された。学習開発専攻は，教育学部に学習開発専攻基幹講座として学習開発基礎講座が設置され，学校教育学部の

一部教官より構成された学習開発専攻協力講座との２講座体制で発足し，旧教育学部と学校教育学部に研究科レベルでの連携体制が形成された。学習開発専攻の設置と同時に，大学院教育学研究科の教育学，教育行政学，実験心理学，教育心理学，教科教育学，日本語教育学，幼児学の７専攻を，教育科学専攻，心理学専攻，教科教育科学専攻，生涯活動教育学専攻，日本言語文化教育学専攻及び幼年期総合科学専攻の６専攻に改組した。

博士課程を持つ大学院教育学研究科と修士課程の大学院学校教育研究科を改組・統合して，平成１２年４月，前期課程８専攻後期課程３専攻よりなる大学院教育学研究科が設置された。更に，平成１３年４月には大学院の整備に伴い，学部所属の教官組織である１６大講座を大学院に移す大学院講座化が行われた。

3　教育学研究科の特色

博士課程前期・後期制を採用した大学院教育学研究科の特色は，以下の４点にまとめることができる。

(1) 前期課程と後期課程の専攻構成が異なっている。すなわち，多様化する教育課題の解決や先端的教育課題に対応するため，前期課程は，専修免許状を取得するための教員，教育行政や臨床心理の専門家等の高度専門職業人の養成を中心とした教育・研究指導を行う８専攻で構成され，後期課程は，理論と実践の学際化・統合化・先端化を推進する教育・研究指導を行うため，研究領域の共通性に基づき前期課程の複数の専攻をまとめた３専攻で構成されている。

(2) 教育諸科学の研究領域を１６の大講座に分けて，教員の研究組織を構成している。これに加えて，附属幼年教育研究施設，教育実践総合センター，特別支援教育実践センター，心理臨床センターの所属教員，留学生センター，外国語教育研究センター，情報メディア教育研究センター教員が，それぞれ協力講座教員として研究指導に参画している。さらに，高等教育開発研究センターの教員により構成される高等教育開発専攻は，我が国初の高等教育研究の専攻として教育学研究科の特色の一つをなしている。

(3) 教員の研究組織が大講座制であることは，学生のニーズや社会の変化に対応した現代的で多様な教育課程が編成可能であることを意味している。また，複数指導教員体制によって，総合的・学際的な研究指導や学生の個性を活かしたきめ細かい指導を行う。
特に，現職教員等の社会人を積極的に受け入れ，現職教員の資質向上にも力を入れた教育・研究体制を採っている。

(4) 前期課程の学習科学，特別支援教育学，科学文化教育学，言語文化教育学，生涯活動教育学の各専攻にあっては，研究領域に対応した専修を設け，学生のニーズに応じたに研究指導を行う。また，後期課程では，狭い専門分野に閉ざされた研究指導の弊害を克服するため，「コースワーク」型の教育・研究体制を敷くことで，学際的・総合的観点から，学生が先端的研究を積極的に行う基礎的能力や，将来の教授・指導に柔軟に対応できる能力などを養う指導体制を採っている。

4　現在の教育学部と教育学研究科の沿革

昭和24年5月　広島大学発足とともに教育学部設置

昭和28年4月　大学院教育学研究科（教育学，教育行政学，実験心理学，教育心理学の4専攻で構成された修士課程，博士課程）設置

昭和28～29年　東雲分校に盲・聾教育兼修課程設置

昭和30年4月　小学校教育科（4年課程）を東千田町地区より東雲分校に移管

昭和31年6月　教育学部（本部）の建物が東千田町に竣工

昭和33年4月　福山分校に教育専攻科（保健体育専攻）設置

昭和34年4月　中学校教育科図画工作科を4年課程に昇格（昭37年美術科に改称）

昭和35年4月　東雲分校の特殊教育（盲・聾教育兼修）課程を4年課程に昇格とともに養護学校教育兼修課程設置

中学校教育職業科を福山分校より東雲分校に移管（昭37年技術科に改称）

昭和36年4月　中学校教育科（4年課程：国語・社会・数学・理科・英語）を東千田町地区より東雲分校に移管

福山分校の教育専攻科に音楽専攻，家政専攻増設

昭和37年3月　三原分校を東雲分校に統合

昭和39年4月　広島大学通則で東雲分校の小・中・盲・聾・　養護の各教育科並びに東千田町と福山分校の高等学校教育科が，それぞれ教員養成課程となる。

昭和41年4月　大学院教育学研究科に教科教育学専攻（国語教育，英語科教育，社会科教育，数学科教育，理科教育）の修士課程と博士課程を増設

附属幼年教育研究施設（幼児教育学部門）設置

昭和42年4月　中学校教員養成課程の音楽・体育・家政を福山分校より東雲分校に移管

昭和44年4月　教科教育学専攻に音楽科教育，保健体育科教育，家政科教育（修士課程）を増設

昭和45年4月　東雲分校に教育専攻科（教育専攻）設置

昭和46年4月　附属幼年教育研究施設に幼児心理学部門増設

昭和48年4月　東雲分校に特殊教育特別専攻科設置

昭和50年4月　大学院教育学研究科に幼児学専攻（修士課程）増設

大学院教育学研究科に幼児保健学講座（幼児学専攻基幹講座）設置

大学院教育学研究科の教育学，教育行政学，実験心理学，教育心理学及び教科教育学の5専攻を，博士課程（前期，後期）に改組

昭和51年5月　日本語・日本事情講座増設

昭和53年6月　改組により，3学科13大講座の教育学部（東千田町（本部）と福山分校）再編と学校教育学部（東雲分校）設置

昭和55年4月　大学院学校教育研究科（学校教育・障害児教育・言語教育・社会科教育・理科教育・保健体育の6専攻の修士課程）設置

昭和56年4月　大学院学校教育研究科に数学教育・美術教育２専攻の修士課程増設
昭和57年4月　大学院学校教育研究科に音楽教育専攻（修士課程）増設
昭和60年7月　広島大学外国人留学生日本語研修コース設置
昭和61年4月　教育学部に日本語教育学科設置
昭和63年4月　学校教育学部に附属教育実践研究指導センター設置
平成元年4月　大学院教育学研究科に幼児学専攻（博士課程）設置
平成元年5月　福山分校廃止（ただし，学内措置により平成元年９月まで存続）
平成元年9月　教育学部及び教育学部福山分校が東広島市統合移転地に移転完了
平成2年4月　大学院教育学研究科に日本語教育学専攻（修士課程）増設
平成3年4月　大学院学校教育研究科に生活科学教育専攻（修士課程）増設
平成4年4月　大学院教育学研究科に日本語教育学専攻（博士課程）増設
平成7年4月　学校教育学部が東広島市統合移転地に移転完了
平成7年4月　学校教育学部に附属障害児教育実践センター設置
平成8年5月　学校教育学部附属教育実践研究指導センターを改組し，教育実践総合センター設置
平成9年4月　大学院教育学研究科に学習開発専攻（博士課程後期独立専攻）増設
大学院教育学研究科の教育学，教育行政学，実験心理学，教育心理学，教科教育学，日本語教育学，幼児学の７専攻を，教育科学専攻，心理学専攻，教科教育科学専攻，生涯活動教育学専攻，日本言語文化教育学専攻及び幼年期総合科学専攻の６専攻に改組
平成12年4月　教育学部と学校教育学部を統合し教育学部に改組
大学院教育学研究科（博士課程）と学校教育研究科（修士課程）を改組・統合し大学院教育学研究科を設置
平成13年4月　大学院教育学研究科の整備に伴い，学部所属の１６大講座が大学院所属となる大学院講座化
平成14年3月　大学院学校教育研究科廃止
平成14年4月　学部附属施設の研究科附属施設への移行（附属幼年教育研究施設，附属教育実践総合センター，附属障害児教育実践センター）
附属心理臨床教育研究センター設置
平成16年4月　国立大学法人広島大学発足
平成19年4月　特殊教育特別専攻科（知的障害教育専攻）を特別支援教育特別専攻科（特別支援教育専攻）に名称変更
平成20年4月　障害児教育学専攻を特別支援教育学専攻へ名称変更
附属障害児教育実践センターを附属特別支援教育実践センターに名称変更

資料４

正本

平成11年7月30日

広島大学大学院教育学研究科設置計画書
（３－１）

広　島　大　学

大学院等の設置の趣旨及び特に設置を必要とする理由を記載した書類

1　設置の趣旨

広島大学の教育学系大学院は，昭和２８年に教育学研究科（修士課程・博士課程）が設置され，教育学，心理学及び教科教育学を中心とした基礎的・理論的研究を推進し，わが国の教育学や心理学の研究の中核を担い，優れた研究者や教育者を輩出してきた。一方，学校教育研究科は，昭和５５年に設置され，高度な実践的指導能力を有する，主として義務教育関係諸学校の教員養成と実践的研究の分野において教育界に寄与している。

（新）教育学研究科の設置は，既存の二研究科の統合による新しい研究と教育の実現である。今日のわが国における「学び」の環境は急速に拡大するとともに，多様化，複雑化しており，従来の研究の手法，視点のみによっては解決が困難なものが多くなっている。多様な学びの解明と学びの支援のあり方の究明と方法の開発，更に，高度な研究能力や実践能力を有する人材養成のためには，これまでのような二研究科体制で研究と教育をそれぞれ遂行することよりも，現体制の成果としての，基礎的・理論的研究と実践的研究及び人材養成にかかわる知見を，既存の両研究科それぞれの研究と教育の特色を活かしつつ統合することが望ましい。

いじめや不登校，学級崩壊・学校崩壊等，学校教育にかかわる深刻な問題が山積し，新しい世紀にふさわしい教育を創造するために改革がスタートしている現在は，特に，学校教育にかかわる難題の解決が緊急の課題であるが，同時に，生涯学習社会の進展は，「学び」の研究と教育の場である教育系大学院に新しい教育諸科学研究の推進を求めている。現在の二研究科において培ってきた知見と現有の人材（研究者，教育者）の活用をもってすれば，このような現代的で緊急の課題の解決に寄与することが可能である。

2　必要理由

「学び」という行為は，人間にとって最も本質的な営みであるが，今日の「学び」は，急速に多様化，複雑化し，多くの深刻な課題も抱え込んでいる。２１世紀の「学び」に適切に対応するためには，これまでの教育諸科学研究と，その支援にかかわる人材養成のあり方を再検討し，新たな研究と教育の体系を確立することが求められている。

「学び」の研究と教育への新しい取り組みは，以下のような視点で具体的に進められる必要があり，この取り組みの成果は，（新）教育学研究科において，最も優れた成果を挙げうると期待される。

(1) 理論研究と実践研究の統合

広島大学は，わが国で唯一，二つの教育系大学院を有する大学である。（現）教育学研究科は，教育にかかわる理論研究に主として取り組み，（現）学校教育研究科は，教育の実践研究の遂行を主たる任務にして，それぞれが独自の存在理由を持ちながら優れた成果を生みだしてきている。課題への効果的で本質的な取り組みと

大学院等の概要を記載した書類

事項	記入欄	備考
設置者	広島大学（国）	
名称	広島大学大学院	
位置	広島県東広島市鏡山一丁目３番２号	
目的	科学技術の飛躍的進歩や高度情報化，さらには高齢化や国際化，生涯学習社会化等，人間を取り巻く社会的諸環境の変化は実に目まぐるしく，かつまた急激である。こうした変化の中にあって，幼児教育から高等教育，さらには成人の生涯学習に至るまでの「教育」という営みに関しては，既存の教育諸科学研究の高度化，先端化のみならず，学際化・総合化，とりわけ理論的研究と実践的研究の統合化を図りつつ，社会的諸環境の変化とともに急増している新たな教育諸課題に対応できる教育諸科学研究の推進と，多様化している教育関係職に従事できる高度な専門性を有する人材の育成が不可欠である。 本研究科は，人間の生涯発達を視野に据え，教育学や心理学，教科教育学等の教育諸科学研究における理論的研究と実践的研究の統合化を図りつつ，幼児期から成人に至るまでの教育諸事象を多角的・学際的に研究し教育分野の研究者や教員等の高度専門職業人の養成を目的として設置するものである。	

	研究科，専攻及び課程の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設の時期及び開設年次	所在地	
		年	人	年次人	人				
	（計画分）								基礎となる学部等
研究科	教育学研究科 学習科学専攻 （博士課程）	前期２	１５	－	３０	修士（教育学） 修士（心理学） 修士（学術）	平成１２年 ４月１日 第１年次	広島県東広島市鏡山一丁目１番１号	教育学部第１類 教育学部第２類 教育学部第３類 教育学部第４類 教育学部第５類
専攻及び課程の名称等	障害児教育学専攻 （博士課程）	前期２	５	－	１０	〃	〃	〃	
	科学文化教育学専攻 （博士課程）	前期２	３５	－	７０	〃	〃	〃	１４条特例の実施
	言語文化教育学専攻 （博士課程）	前期２	３０	－	６０	〃	〃	〃	
	生涯活動教育学専攻 （博士課程）	前期２	２５	－	５０	〃	〃	〃	
	教育学専攻 （博士課程）	前期２	１５	－	３０	〃	〃	〃	
	心理学専攻 （博士課程）	前期２	１５	－	３０	〃	〃	〃	
	高等教育開発専攻 （博士課程）	前期２	５	－	１０	〃	〃	〃	
	学習開発専攻 （博士課程）	後期３	７	－	２１	博士（教育学） 博士（心理学） 博士（学術）	〃	〃	
	文化教育開発専攻 （博士課程）	後期３	２０	－	６０	〃	〃	〃	
	教育人間科学専攻 （博士課程）	後期３	１６	－	４８	〃	〃	〃	

65_広島大学_附属学校_沿革・設置目的資料

１．沿革 ・・ 資料　１

２．設置目的 ・・ 資料　２

３．広島大学設立構想に記載の事項 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 資料　３

４．中期目標・中期計画に記載の事項 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 資料　４

５．広島大学五十年史（通史）に記載の事項 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 資料　５

６．学校要覧（附属小学校） ・・ 資料　６

７．学校要覧（附属中・高等学校） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 資料　７

８．学校案内（附属東雲小学校） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 資料　８

９．学校案内（附属東雲中学校） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 資料　９

10．学校園要覧（附属三原幼稚園・小学校･中学校） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 資料　10

11．学校案内（附属福山中・高等学校） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 資料　11

12．園要覧（附属幼稚園） ・・ 資料　12

広島大学　附属学校　沿革

【広島大学附属小学校】

・昭和４(1929)年　官立文理科大学官制（勅令第37号）が公布され、広島文理科大学を設置
広島高等師範学校（附属小学校、附属中学校）は広島文理科大学に附置

・昭和 22(1947)年　学校教育法(昭和 22 年法律第 26 号)により、広島高等師範学校附属小学校設置

・昭和24(1949)年　国立学校設置法（昭和24年法律第150号）により、広島文理科大学（附置研究所を含む)、広島高等学校、広島工業専門学校、広島高等師範学校、広島女子高等師範学校、広島師範学校、広島青年師範学校を包括し、広島市立工業専門学校を併合して広島大学を設置
広島大学・広島高等師範学校附属小学校と改称

・昭和 27(1952)年　広島大学教育学部附属東千田小学校と改称

・昭和 30(1955)年　広島大学教育学部附属小学校と改称

・昭和 53(1978)年　広島大学教育学部の改組、学校教育学部の創設に伴い、広島大学附属小学校と改称

【広島大学附属中学校・高等学校】

・昭和４(1929)年　官立文理科大学官制（勅令第37号）が公布され、広島文理科大学を設置
広島高等師範学校（附属小学校、附属中学校）は広島文理科大学に附置

・昭和 22(1947)年　学校教育法(昭和 22 年法律第 26 号)により､広島高等師範学校附属中学校、附属高等学校設置

・昭和 22(1929)年　広島高等師範学校附属高等学校設置

・昭和24(1949)年　国立学校設置法（昭和24年法律第150号）により、広島文理科大学（附置研究所を含む)、広島高等学校、広島工業専門学校、広島高等師範学校、広島女子高等師範学校、広島師範学校、広島青年師範学校を包括し、広島市立工業専門学校を併合して広島大学を設置
広島大学・広島高等師範学校附属中学校、附属高等学校と改称

・昭和 27(1952)年　広島大学教育学部附属東千田中学校、附属東千田高等学校と改称

・昭和 28(1953)年　ユネスコ教育実験学校（後にユネスコ協同学校に改称）に指定

・昭和 30(1955)年　広島大学教育学部附属中学校、附属高等学校と改称

・昭和 53(1978)年　広島大学教育学部の改組、学校教育学部の創設に伴い、広島大学附属中学校、高等学校と改称

【広島大学附属東雲小学校】

・昭和18(1943)年　師範教育令改正に伴い、広島県師範学校は官立移管され、専門学校程度に昇格し，広島師範学校（附属国民学校）を設置

・昭和 22(1947)年　学校教育法(昭和 22 年法律第 26 号)により、広島師範学校附属小学校設置

・昭和24(1949)年　国立学校設置法（昭和24年法律第150号）により、広島文理科大学（附置研究所を含む)、広島高等学校、広島工業専門学校、広島高等師範学校、広島女子高等師範学校、広島師範学校、広島青年師範学校を包括し、広島市立工業専門学校を併合して広島大学を設置

広島大学・広島師範学校附属附小学校設置

・昭和 26(1951)年　広島大学教育学部附属東雲小学校と改称

・昭和 36(1961)年　養護学級を設置

・昭和 47(1972)年　複式学級を設置

・昭和 53(1978)年　広島大学教育学部の改組、学校教育学部の創設に伴い、広島大学附属東雲小学校と改称

【広島大学附属東雲中学校】

・昭和 22(1947)年　学校教育法(昭和 22 年法律第 26 号)により、広島師範学校附属中学校設置

・昭和24(1949)年　国立学校設置法（昭和24年法律第150号）により、広島文理科大学（附置研究所を含む)、広島高等学校、広島工業専門学校、広島高等師範学校、広島女子高等師範学校、広島師範学校、広島青年師範学校を包括し、広島市立工業専門学校を併合して広島大学を設置

広島大学・広島師範学校附属中学校を設置

・昭和 26(1951)年　広島大学教育学部附属東雲中学校と改称

・昭和 38(1963)年　養護学級を設置

・昭和 53(1978)年　広島大学教育学部の改組、学校教育学部の創設に伴い、広島大学附属東雲中学校と改称

【広島大学附属三原幼稚園・小学校・中学校】

・昭和18(1943)年　師範教育令改正に伴い、広島県師範学校は官立移管され、専門学校程度に昇格し，広島師範学校（附属幼稚園、附属国民学校）を設置

・昭和 22(1947)年　学校教育法(昭和 22 年法律第 26 号)により、広島師範学校附属幼稚園、附属小学校、附属中学校設置

・昭和24(1949)年　国立学校設置法（昭和24年法律第150号）により、広島文理科大学（附置研究所を含む)、広島高等学校、広島工業専門学校、広島高等師範学校、広島女子高等師範学校、広島師範学校、広島青年師範学校を包括し、広島市立工業専門学校を併合して広島大学を設置

広島大学・広島師範学校附属幼稚園、附属小学校、附属中学校を設置

・昭和 26(1951)年　広島大学教育学部附属幼稚園、附属三原小学校、附属三原中学校と改称

・昭和 41(1966)年　広島大学教育学部附属三原幼稚園に改称

・昭和 53(1978)年　広島大学教育学部の改組、学校教育学部の創設に伴い、広島大学附属三原幼稚園、附属三原小学校、附属三原中学校と改称

【広島大学附属福山中・高等学校】

・昭和 20(1945)年　広島女子高等師範学校附属山中高等女学校設置

・昭和 22(1947)年　広島女子高等師範学校附属中学校設置
広島青年師範学校附属中学校設置

・昭和 23(1948)年　広島女子高等師範学校附属高等学校設置
広島青年師範学校附属高等学校設置

・昭和24(1949)年　国立学校設置法（昭和24年法律第150号）により、広島文理科大学（附置研究所を含む)、広島高等学校、広島工業専門学校、広島高等師範学校、広島女子高等師範学校、広島師範学校、広島青年師範学校を包括し、広島市立工業専門学校を併合して広島大学を設置
広島大学・広島女子高等師範学校附属山中高等女学校、附属中学校、附属高等学校を設置
広島大学・広島青年師範学校附属中学校、附属高等学校を設置

・昭和 25(1950)年　広島女子高等師範学校附属中学校・高等学校の一部が福山市に移転し、広島青年師範学校附属中学校・高等学校と合併して開校

・昭和 26(1951)年　広島大学教育学部附属福山中学校設置

・昭和 27(1952)年　広島大学教育学部附属福山高等学校設置

・昭和 53(1978)年　広島大学教育学部の改組、学校教育学部の創設に伴い、広島大学附属福山中学校、附属高等学校と改称

【広島大学附属幼稚園】

・昭和 41(1966)年　広島大学教育学部附属幼年教育研究施設の設置に伴い、その研究園として教育学部附属幼稚園設置

・昭和 53(1978)年　広島大学教育学部の改組、学校教育学部の創設に伴い、広島大学附属幼稚園と改称

広島大学　附属学校　設置目的等

広島大学には、大学の附属施設として 11 校園(幼稚園２園、小学校３校、中学校４校、高等学校２校)が設置されている。これらの附属学校園は、昭和 53 年の本学の改組によって学部附属から大学附属に位置づけ、共通の目的・使命として、学校教育法に定める幼稚園、小学校、中学校または高等学校の目的の達成に努めるとともに、国立学校設置法施行規則第 27 条の規定にしたがい、幼児・児童・生徒の教育はもとより、大学と連携した教育研究、教育実習、教員研修機能を遂行するための研究校、教育開発校としての使命を果たしてきた。

さらに、それぞれに固有の創設等の経緯をもつことから、それぞれの制度的特色を生かした教育･研究を進めつつ、相互の連携を深めて、教育研究のいっそうの発展をめざしてきた。それらは、①幼児の保育に当たりながら幼児学･保育学の研究を推進している附属幼稚園(東広島地区)、②小･中・高等学校 12 年間一貫教育とその研究をめざしている附属小・中・高等学校(広島（翠）地区)、③小・中学校の教育とその研究をめざしている附属東雲小・中学校(広島（東雲）地区)、④幼稚園から中学校までの 12 年間一貫教育とその研究に当たっている附属三原幼稚園・小・中学校(三原地区)、⑤中･高等学校の６年間の一貫教育とその研究をめざしている附属福山中･高等学校(福山地区)の５つに大別される。

法人化後もその役割は変わることなく、国立大学法人広島大学設立構想（平成 16 年 3 月）で、附属学校について次のように記載している。

『附属学校は、「広島大学附属学校」としての特色を活かし、全国的な初等・中等教育の範となるべき教育機関として、基礎的・先端的教育活動を実践する。また、大学と連携した教育実践研究及び学生の教育実習の場としての役割を果たし、かつ、これらを活かした社会貢献を実現するため、附属学校の運営は、附属学校担当副学長のもとで他部局等の協力を得て行う。』

・東広島地区	附属幼稚園	（３学級	90人）
・広島（翠）地区	附属小学校	（12学級	464人）
	附属中学校	（９学級	360人）
	附属高等学校	（15学級	600人）
・広島（東雲）地区	附属東雲小学校	（18学級	536人）
	附属東雲中学校	（９学級	264人）
・三原地区	附属三原幼稚園	（５学級	160人）
	附属三原小学校	（12学級	464人）
	附属三原中学校	（６学級	240人）
・福山地区	附属福山中学校	（９学級	360人）
	附属福山高等学校	（15学級	600人）

資料３

国立大学法人広島大学設立構想

平成１６年3月２５日

広　島　大　学

法人設立本部会議資料

Hiroshima University

・教員集団の外部資金獲得に関する情報収集
・教員集団の国内・国際連携研究に関する業務
・その他, 教員集団の研究教育活動に係る事務的業務処理（学内における各種手続きを含む。）

② 研究所支援グループの機能

研究教育活動の活性化と質の向上を図るためには，教員個々人がこれらの活動以外の負担を可能な限り軽減することが重要である。そのために，可能な限り教員が研究教育活動に専念できるように，教員の研究教育活動を支援する機能を有した組織を設置することとする。

所長支援組織は，新しい管理運営体制の下で，所長を中心とした所長室において行われる，研究所の管理運営を全体的に支援するものとする。

研究教育活動支援組織は，教員の目線に立ったサービスが可能なセクレタリー･セクションに相当する組織として位置づけ，教育サポート，研究サポート，マネジメント及びセクレタリーの４つの機能を併せ持つものとする。研究教育活動支援の業務範囲としては，現行の研究部門の事務範囲にとどまらず，現行の事務室が担っている，教員に対する支援業務も，この組織に移行することとする。

教員の業務遂行上で生じた問題や事務的な疑問，質問等に対してワンストップサービスで対応でき，また，大学の各部・センター等との連絡・調整機能を持つものとする。

（４）附属学校

附属学校は，「広島大学附属学校」としての特色を活かし，全国的な初等・中等教育の範となるべき教育機関として，基礎的・先端的教育活動を実践する。また，大学と連携した教育実践研究及び学生の教育実習の場としての役割を果たし，かつ，これらを生かした社会貢献を実現するため，附属学校の運営は，附属学校担当副学長（以下「担当副学長」という。）のもとで他部局等の協力を得て行う。

１）運営組織の基本構成

基本となる運営組織は,担当副学長を室長とする附属学校室と，附属学校の運営に関する業務を行う附属学校部を設置するとともに，現在５地域に分かれている附属学校を３つのエリアに再編・統合し，その３エリアは，西部エリア（広島地区），中央エリア

（東広島地区，三原地区）及び東部エリア（福山地区）とする。

なお，中央エリアには，日々の教育実践研究に対応できる附属学校を配置するため広島市にある東雲小・中学校を東広島地区に移転し，三原地区の幼・小・中学校と連携を深めた運営を行う。

2）附属学校室

① 附属学校室の構成

附属学校室は，附属学校の統括責任者としての担当副学長を室長とし，副学長を補佐・支援し，教育研究活動に関する企画・立案等の業務を担当する専任の職員及び併任の教職員で構成する。

また，附属学校室に校長会議を置く。

② 附属学校室の主たる業務

附属学校の統括・調整，県市との交流人事・事業の企画立案・交渉，附属学校間の交流人事，大学附属としての共同研究の企画・立案，さらには附属学校の将来計画・中期目標・中期計画の企画・立案，概算要求，評価等を行う。

③ 校長会議

校長会議は，担当副学長が主宰し，附属学校の教育研究及び運営に関する重要事項について審議する。担当副学長に事故がある場合は，あらかじめ担当副学長が指名した校園長がその職務を代理する。

また，担当副学長が必要と認めたときは，副校園長を加えた拡大校長会議を開催し，連絡調整を行う。

ⅰ）構成員

・ 担当副学長，校園長及び担当副学長が指名した附属学校室の専任又は併任の教職員で構成する。

・ 担当副学長が必要と認めたときは，構成員以外の者の出席を求め，その者の意見を聴くことができる。

ⅱ）審議事項

・附属学校の規程に関する事項
・附属学校の中期計画・中期目標に関する事項
・附属学校の教員の人事に関する事項
・各附属学校の点検評価に関する事項
・大学との共同研究及び附属学校独自の研究の基本方針
・附属学校の予算に関する事項
・各附属学校の入学試験の基本方針

平成 24 年度版　国立大学法人広島大学　第二期中期目標・中期計画・年度計画

中　期　目　標	中　期　計　画	２２年度計画	２３年度計画	２４年度計画	２５年度計画	２６年度計画	２７年度計画	最終成果
（４）附属学校に関する目標 大学と連携して，学校教育に係る研究開発の全国的・地域的拠点校を目指す。	**（４）附属学校に関する目標を達成するための措置** **＜計画番号１０＞** **（教育室）** 大学との連携により，地域・日本・世界をリードする人材の育成を目指す初等中等教育カリキュラムの開発を行う。	**（４）附属学校に関する目標を達成するための措置** **＜計画番号１０＞** **（教育室）** 大学との連携により，世界的視点から先進的な教育実習と教育実践研究に関して，信頼性かつ妥当性ある調査を実施する。	**（４）附属学校に関する目標を達成するための措置** **＜計画番号１０＞** **（教育室）** 前年度に実施した教育実習と教育実践研究に関する調査について，調査結果を分析する。	**（４）附属学校に関する目標を達成するための措置** **＜計画番号１０＞** **（教育・国際室）** 前年度の分析結果をもとに，初等中等教育カリキュラム及び教員の質を保証する教育実習制度を開発するために，大学と連携して具体的な研究開発システムの構築に着手する。	**（４）附属学校に関する目標を達成するための措置** **＜計画番号１０＞** 大学と連携して具体的な研究開発システムを構築する。	**（４）附属学校に関する目標を達成するための措置** **＜計画番号１０＞** 平成２５年度までに構築した研究開発システムにより，初等中等教育カリキュラム及び教育実習制度を試行する。	**（４）附属学校に関する目標を達成するための措置** **＜計画番号１０＞** 平成２６年度の試行結果をもとに改善し，完成させる。（完結）	**（４）附属学校に関する目標を達成するための措置** **＜計画番号１０＞** 地域・日本・世界をリードする人材の育成を目指した，園児・児童・生徒のためのカリキュラムと教員養成のための指導計画を構築し発信する。 ＜評価指標＞ ・カリキュラムの実効性
Ⅱ　業務運営の改善及び効率化に関する目標 **１　組織運営の改善に関する目標** **（１）柔軟な教育研究体制の構築に関する目標** ①　学問の高度化・複合化・グローバル化へ対応できるよう，教育研究体制の見直しを行う。	**Ⅱ　業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置** **１　組織運営の改善に関する目標を達成するための措置** **（１）柔軟な教育研究体制の構築に関する目標を達成するための措置** **＜計画番号１１＞** **（学長室）** ①　社会的ニーズや定員充足率等を踏まえ，学部，研究科の組織及び入学定員の見直しを行う。	**Ⅱ　業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置** **１　組織運営の改善に関する目標を達成するための措置** **（１）柔軟な教育研究体制の構築に関する目標を達成するための措置** **＜計画番号１１＞** **（学長室）** ①　工学研究科の専攻再編，医歯薬学総合研究科薬科学専攻（博士課程前期）を設置する。また，医学部医学科及び法務研究科の入学定員の改訂を行う。さらに，学部，研究科の組織及び入学定員の見直しを検討する。	**Ⅱ　業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置** **１　組織運営の改善に関する目標を達成するための措置** **（１）柔軟な教育研究体制の構築に関する目標を達成するための措置** **＜計画番号１１＞** **（学長室）** ①　医歯薬学総合研究科口腔健康科学専攻（博士課程後期）を設置する。また，学部，研究科の組織及び入学定員の見直しを検討する。	**Ⅱ　業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置** **１　組織運営の改善に関する目標を達成するための措置** **（１）柔軟な教育研究体制の構築に関する目標を達成するための措置** **＜計画番号１１＞** **（学長室）** ①　学部，研究科の組織及び入学定員の見直しを検討する。	**Ⅱ　業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置** **１　組織運営の改善に関する目標を達成するための措置** **（１）柔軟な教育研究体制の構築に関する目標を達成するための措置** **＜計画番号１１＞** ①　学部，研究科の組織及び入学定員を見直す。	**Ⅱ　業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置** **１　組織運営の改善に関する目標を達成するための措置** **（１）柔軟な教育研究体制の構築に関する目標を達成するための措置** **＜計画番号１１＞** ①　学部，研究科の組織及び入学定員を見直す。	**Ⅱ　業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置** **１　組織運営の改善に関する目標を達成するための措置** **（１）柔軟な教育研究体制の構築に関する目標を達成するための措置** **＜計画番号１１＞** ①　学部，研究科の組織及び入学定員を見直す。（完結）	**Ⅱ　業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置** **１　組織運営の改善に関する目標を達成するための措置** **（１）柔軟な教育研究体制の構築に関する目標を達成するための措置** **＜計画番号１１＞** ①　教育研究体制を見直し，学問の高度化・複合化・グローバル化へ対応 ＜評価指標＞ ・教育研究組織の整備

資料４

資料５

広島大学五十年史

通史編

教育学部附属幼稚園

附属幼年教育研究施設の設置と同時に、その研究園として附属幼稚園が昭和四十一年四月一日付で設置された。園児の募集については、入園予定児の調査および抽選の手続を経て決定し、入園定員三五名、四才児からの二年保育課程としている。

また、三原市にある既設の附属幼稚園は、これによって同日、附属三原幼椎園と改称された。なお、附属三原幼稚園には昭和四十七年度より三年保育課程が設置された。

教育学部附属小学校・中学校・高等学枚

広島大学に包括された旧制の教員養成諸学校には、それぞれ附属学校が設置されていた。しかし旧制諸学校の廃止にともなってそれらはすべて教育学部の附属学校に移行した。広島高等師範学校から引き継いだ附属東千田小学校、同東千田中学校、同東千田高等学校（以上、昭和二十七年度より移行）、広島師範学校から引き継いだ附属東雲小学校、同東雲中学校、同三原小学校、同三原中学校、同附属幼稚園（以上、昭和二十六年度より移行）、広島女子高等師範学校および青年師範学校から引き継いだ附属福山中学校（昭和二十六年度より移行）、同福山高等学校（昭和二十七年度より移行）の一〇校であった。

このため広島大学教育学部の附属学校は、全国国立大学のなかで最大の学校数を有している。昭和三十年七月には、

資料６

学 校 要 覧

平成24年度

広 島 大 学 附 属 小 学 校

〒734-0005 広島市南区翠一丁目１番１号
TEL（082）251－9882（代表）
FAX（082）251－0196
[E-mail] fushou@hiroshima-u.ac.jp
[URL] http://home.hiroshima-u.ac.jp/fushou/

沿　革

1902（明治35）年、広島高等師範学校の設置が勅令で決定し、翌年10月17日に広島高等師範学校が開校した。ここに、わが広島大学附属小学校の母体が誕生した。1905（明治38）年４月17日、わが校の前身である広島高等師範学校附属小学校が開校した。よって、毎年４月17日を本校の開校記念日としている。

・1905（明治38）年４月17日：開校式を行う。
・　〃　　９月25日：第１回教生の実地授業練習を行う。
・1906（明治39）年７月21日：安芸郡倉橋島で、はじめて臨海教育を実施する。
・1914（大正３）年１月１日：月刊教育誌『学校教育』を創刊する。本誌は本年度４月号で通巻1137号。
・1915（大正４）年５月７日：第１回小学校教育研究大会を開催する。
・1918（大正７）年９月１日：第２部尋常科１学年男女児を募集し、秋季学年を開始する。
・1920（大正９）年５月15日：創立15周年記念式典を行う。
・1929（昭和４）年４月１日：広島文理科大学が設置され、高等師範学校および附属学校が付置される。
・1930（昭和５）年５月25日：創立25周年記念式典を行う。
・1932（昭和７）年５月20日：「学校教育研究会」を社団法人として設立する。
・1935（昭和10）年４月17日：創立30周年記念式典を行う。
・1938（昭和13）年７月１日：新築校舎（東千田町校舎）が完成し、新校舎で授業を開始する。
・　〃　　７月19日：豊田郡大乗村（現竹原市）の新築臨海教育場で４学年以上の臨海教育を実施する。
・1940（昭和15）年６月10日：校旗を制定する。
・1941（昭和16）年４月１日：国民学校令により附属国民学校と改める。
・1945（昭和20）年４月12日：戦火を避けるため、比婆郡西城町に学童疎開をする。
・　〃　　８月６日：東千田町校舎、原爆被災する。
・　〃　　11月２日：大乗臨海教育場で臨時に開校し、授業を再開する。
・1946（昭和21）年５月１日：東千田町の戦災校舎で始業式を行う。
・1947（昭和22）年４月１日：附属国民学校を附属小学校と改める。
・1950（昭和25）年７月22日：臨海教育を復活し、豊田郡大乗臨海教育場で実施する。（５・６年児童）
・1952（昭和27）年４月１日：広島大学教育学部附属東千田小学校と改称する。
・1955（昭和30）年７月１日：広島大学教育学部附属小学校と改称する。
・1956（昭和31）年６月21日：附属小学校「同窓会」を創立する。
・1961（昭和36）年４月１日：附属中・高等学校が皆実町へ移転する。
・1964（昭和39）年４月10日：現在地の附属小学校校舎で始業式を行う。
・1965（昭和40）年４月17日：創立60周年記念式典を行う。
・　〃　　７月21日：能美島臨海教育場（江田島市）が完成し、臨海教育を実施する。
・1967（昭和42）年９月２日：新設プールが完成し、記念式典（プール開き）を行う。
・1972（昭和47）年４月10日：運動場整備工事が完了する。
・1973（昭和48）年10月30日：総合学習を実験的に実施する。
・1974（昭和49）年４月１日：総合学習を導入し、教育課程試案を実施する。
・1975（昭和50）年４月21日：従来のPTA・後援会を改組して「すずかけ会」を発足する。
・　〃　　10月18日：創立70周年記念式典を行う。（同窓会を「豊葦会」と命名する）
・1978（昭和53）年４月１日：1978年版教育課程を完全実施する。
・　〃　　６月17日：広島大学の改組に伴い、広島大学附属小学校と改称する。
・1985（昭和60）年10月19日：創立80周年記念式典を行う。
・1988（昭和63）年４月１日：新教育課程試案を実施する。
・1991（平成３）年４月１日：新教育課程（1991年１月完成）を完全実施する。
・1995（平成７）年４月17日：創立90周年記念式典を行う。
・　〃　　６月21日：新設プールが完成し、記念式典（プール開き）を行う。
・1999（平成11）年４月１日：新教育課程（1998年１月完成）を完全実施する。
・2000（平成12）年11月１日：月刊教育誌『学校教育』1000号記念誌を発行する。
・2001（平成13）年１月29日：広島大学附属小学校教育後援会が発足する。
・2002（平成14）年６・９月：小学校教員免許取得希望学生対象の教育実習を初めて実施する。
・2003（平成15）年７月28日：授業づくりフォーラムを初めて開催する。
・2004（平成16）年４月１日：国立大学の法人化に伴い、国立大学法人広島大学の附属小学校となる。
　（校名改称なし）
・2005（平成17）年２月９日：教育課程『文化を創り出す総合学習』を発行する。
・　〃　　４月17日：100回目の創立記念日を迎える。
・　〃　　11月５日：創立100周年記念式典を行う。
・2007（平成19）年１月15日：『21世紀型学力を保障する教育課程の創造』を発行する。
・　〃　　４月１日：新教育課程（2007年１月完成）を完全実施する。
・2008（平成20）年８月１日：耐震工事に伴う大型校舎改修工事が始まる。
・　〃　　８月29日：プレハブ校舎での授業を開始する。
・2009（平成21）年４月30日：新校舎完成を祝う会を行う。
・2011（平成23）年４月12日：運動場整備工事が完了する。
・2012（平成24）年６月25日：体育館改修工事が始まる。

資料７

2012
学校要覧

広島大学附属中・高等学校

1．本校の使命と教育方針

本校の使命

(1) 本校は，学校教育法に基づく中学校及び全日制普通科の高等学校であるが，広島大学の附属学校としてわが国の中等教育に関する実験的研究を行い，研究校としての使命を持っている。

(2) 大学学生の教育実習の指導を担当する教育実習校としての使命を持っている。

教育方針

(1) 「教育基本法」ならびに「学校教育法」が定めているところに従って，国家社会の有為な形成者に必要な資質を啓培する。

・平和的，民主的，文化的人間を育成する。

・個人的資質を最大限に伸長する。

(2) 本校の伝統的教育精神である全人教育を基盤にし，知育，美育，体育の調和を図って，個人的，社会的特性の向上に努める。

2．沿 革 略 史

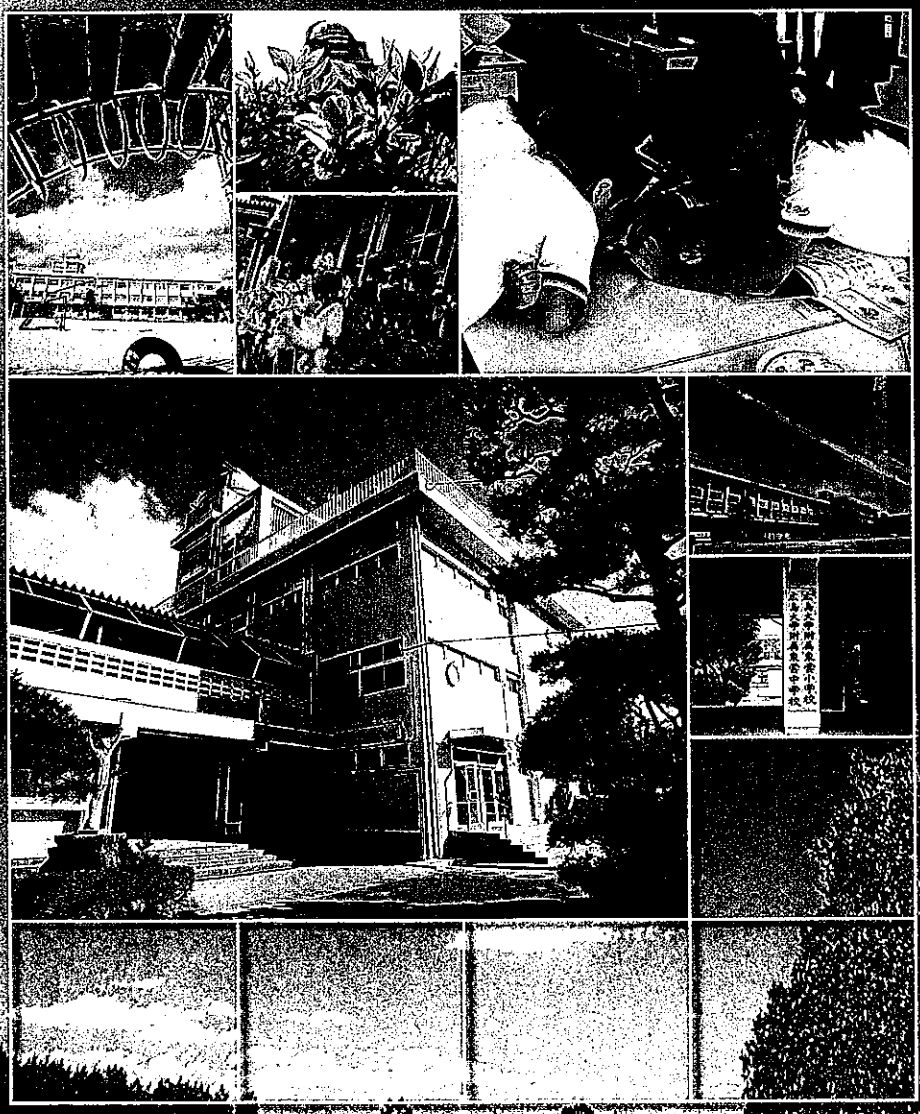
明治38年(1905) 3月	広島高等師範学校附属中学校（生徒定員350名，10学級）の設置認可。
4月17日	第1回入学式（高師講堂，74名），生徒訓条4か条・校章制定。（以後，この日を開校記念日とする。）
4月18日	旧土木監督署（千田町）を仮校舎として授業開始。
9月12日	教育実習を開始。
39年(1906)12月23日	附属中学校新校舎（高師構内）に移転。
大正4年(1915) 7月10日	創立10周年記念誌『十かへりの花』を刊行。
9年(1920)11月 3日	中等教育研究会を創立し，第1回を開催。
12年(1923) 3月 1日	父兄団を設立。
14年(1925) 5月24日	創立20周年記念誌『旭光』を刊行。
昭和5年(1930) 5月18日	創立25周年記念誌『二十五年史』を刊行。
10月25日	創立25周年記念誌史『飛龍』を刊行。
7年(1932) 7月 7日	中等教育研究会『中等教育の実際』を創刊。 （昭和15年11月　時局下，第29号をもって休刊。）
17年(1942) 3月26日	3学級併進（定員525名）の認可。
20年(1945) 1月20日	科学学級（1，2，3年　各1学級）編成。
4月	3年生以上，通年動員に出動。
7月4日	1，2年生，及び科学学級3年生以下，賀茂郡原村，比婆郡東城町などに疎開。
8月6日	原子爆弾により，全校舎焼失。
9月	賀茂郡原村，豊田郡戸野村などにおいて授業再開。
22年(1947) 1月15日	全校，広島市の旧校地に復帰。
12月	第26回全国高校サッカー選手権大会に優勝。
23年(1948) 3月17日	新制中学校第1回卒業式を挙行。
11月	第3回国民体育大会においてサッカー班優勝。
24年(1949) 3月 8日	新制高等学校第1回卒業式を挙行。自署名簿制度を設立。
5月31日	校名を広島大学・広島高等師範学校附属中学校・同高等学校と改称。父兄団をPTAに改組。
26年(1951) 9月	アカシア賞制度を設立。

昭和27年(1952) 4月1日	校名を広島大学教育学部附属東千田中学校・同高等学校と改称。
28年(1953) 5月1日	高校『教育研究』を創刊。(以後，毎年刊行。第4号より『研究紀要』)
11月	ユネスコ教育実験学校（後に，ユネスコ協同学校と改称）に指定。
29年(1954) 1月7日	第32回全国高校サッカー選手権大会に優勝。
3月	中学校『教育研究』を創刊。(以後，毎年刊行。)
4月1日	高校を各学年5学級，中学校を各学年3学級に改組。
30年(1955) 7月1日	校名を広島大学教育学部附属中学校・同高等学校と改称。
11月3日	『創立50周年記念誌』を刊行。「炎の碑」除幕式を挙行。
32年(1957) 11月	PTA会誌『むつミ』を創刊。
33年(1958) 11月	高校生徒会誌『うごき』を創刊。
34年(1959) 3月	中学校生徒会誌『流れ』を創刊。
35年(1960) 4月14日	高校生徒会誌『附高入門』を創刊。
36年(1961) 3月15日	全校，現在地（当時，広島大学教養部，旧広島高等学校跡）に移転。
40年(1965) 9月	創立60周年記念学校祭を挙行。
45年(1970) 10月4日	新校舎（中・高校普通・実験教室，体育館，プール等）落成式を挙行。
46年(1971) 4月17日	アカシア会館が落成。
50年(1975) 4月17日	創立70周年記念「生徒集会所（食堂)」を新築。
53年(1978) 6月17日	校名を広島大学附属中学校・高等学校と改称。
56年(1981) 4月	中学校生徒会誌『附中入門』を創刊。
60年(1985) 4月1日	研究開発学校の指定を受ける。(昭和63年3月まで)
4月17日	創立80周年記念誌『創立八十年史（上巻)』を刊行。
4月23日	創立80周年祝賀会を挙行。
11月23日	「若人の像」除幕式を挙行。
61年(1986) 2月	高等学校入学検査に帰国子女制度を導入。(平成15年度まで実施)
3月	創立80周年記念「研修館」を新築。
4月17日	創立80周年記念誌『創立八十年史（下巻)』を刊行。
62年(1987) 4月17日	中等教育研究開発室（7部門）を発足。(現在は8部門)
63年(1988) 9月1日	同開発室『研究論集』第1号を刊行。
9月1日	同開発室『年報』を創刊。
平成2年(1990) 2月	高等学校入学検査に推薦制度を導入。
4月17日	創立85周年記念式典を挙行。
4年(1992) 3月1日	『広島大学附属中・高等学校規程集』を刊行。
6年(1994) 2月	講堂が広島市により被爆建物として指定される。
7年(1995) 1月	創立90周年記念「情報館」を新築。
3月30日	創立90周年記念誌を刊行。
4月15日	創立90周年記念式典を挙行。
6月	プールを全面改修。
9年(1997) 4月	研究開発学校の指定を受ける。(平成12年3月まで)
10年(1998)	講堂が文化庁により有形文化財として登録される。
12年(2003) 3月	『広島大学附属中・高等学校規程集』を改訂。
4月15日	創立95周年記念式典を挙行。
15年(2003) 3月	オーストラリア研修を開始。
4月	スーパーサイエンスハイスクールの指定を受ける。(平成19年3月まで)
16年(2004) 4月1日	全国の国立大学が国立大学法人に移行。
17年(2005) 4月16日	創立100周年記念式典を挙行。
4月17日	創立100周年記念誌『創立百年史（上・下・別巻)』を刊行。
19年(2007) 1月	入学検査（中）抽せん廃止。
4月	スーパーサイエンスハイスクールの指定を受ける。(平成24年3月まで)
20年(2008) 3月	2号館耐震補強工事，講堂前渡り廊下の撤去工事竣工。
	英国研修を開始。
22年(2010) 2月	1号館耐震補強工事竣工。
3月	テニスコートを全面改修。
24年(2012) 3月	3号館耐震補強工事竣工。
4月	スーパーサイエンスハイスクールの指定を受ける。(平成29年3月まで)

資料８

学校案内 2012

平成24年度



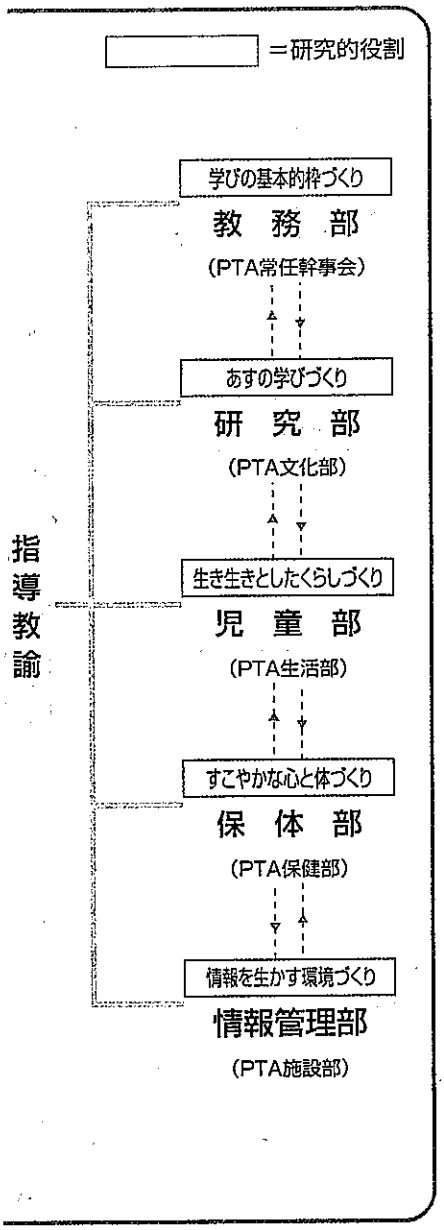
広島大学附属東雲小学校

広島大学

Hiroshima University Shinonome Elementary School

〒734-0022 広島市南区東雲三丁目１番33号
TEL (082)−890−5111
FAX (082)−890−5114
E-mail eleshino@hiroshima-u.ac.jp
URL http://home.hiroshima-u.ac.jp/eleshino

的な校務部をめざして－



数

平成23年4月1日現在

4 年	5 年	6 年	合 計
75	75	77	446
8	8	8	48
2	2	2	13
85	85	87	507

員 数

師	事務	環境支援	給食	校医	薬剤師	売店等	総計
2	1	3		1			23
5	3		7	1	1	1	29
7	4	3	7	2	1	1	52

新しい出会い・発見・感動

3年生から始まる宿泊学習を大切に！

3年<三滝>,4年<海>,
5年<山>,6年<旅>
宿泊数を増しながら、
たくましく生きる力を育てます。
1・2組, 複式, 特別支援の
4学級がみんな一緒に…。

たてわり班を取り組みの縦軸に！

1年から6年まで一緒になって
グループを構成し,6年のリーダーを
中心に,異年齢集団での活動を
経験しながら学校全体の
一体感をつくりあげます。

お迎え遠足

運動会

入学式

● 運動会

春休み

● 入学式
● 健康診断
● お迎え遠足

後　期

● 6年
● 卒業
● 修了

沿　革

明治　8年(1875年)10月　広島県公立師範学校附属小学校として広島市白島町に創立
大正　2年(1913年)11月　第1回教育研究会(公開)開催
昭和16年(1941年)　7月　広島市東雲町(現在東雲3丁目)の新校舎に移転
昭和36年(1961年)10月　養護学級を設置
昭和44年(1969年)　8月　新校舎起工式
昭和47年(1972年)　4月　複式学級開設・同年複式校舎落成
昭和50年(1975年)10月　創立100周年記念式典挙行・校歌制定
昭和53年(1978年)　6月　広島大学附属東雲小学校と改称
平成　6年(1994年)　6月　第100回東雲教育研究会開催
平成14年(2002年)12月　養護学級創設40周年・複式学級創設30周年記念式典挙行
平成17年(2005年)10月　創立130周年記念式典挙行

東雲小・中学校について
学校長挨拶
入学のご案内
研究大会のご案内

学校紹介
東雲小学校
東雲中学校

交通のご案内
研究物のご案内
お問い合わせ

小学校沿革

沿 革

明治 08.10.30 広島県公立師範学校附属小学校として、広島市白島町に創立
10.03.07 広島県師範学校附属小学校と改称
12.09.10 広島県広島師範学校附属小学校と改称
19.07.12 広島県尋常師範学校附属小学校と改称
21.07.03 男子の制服制定
31.04.01 広島県師範学校附属小学校と改称
33.09.25 遠足行事開始
34.03.28 第一回学芸会開催
34.09.11 広島市皆実町(現在比治山橋東詰)の新校舎に移転・校庭で朝礼開始
40.04 保護者団(現PTA)の創立
41.03. 9 研究報告第1号発刊

大正 02.11.20 第1回教育研究会(公開)開催(～22日)
08.05.01 女子の制服(洋服)制定
11.04.01 広島県広島師範学校附属小学校と改称

昭和 07.04.01 広島県師範学校附属小学校と改称
16.04.01 広島県師範学校附属国民学校と改称
16.07.19 広島市東雲町(現在東雲三丁目)の新校舎に移転
18.04.01 官立広島師範学校男子部附属国民学校と改称
19.06.02 学校給食を開始
20.04.14 広島県比婆郡敷信村に集団疎開
20.08.06 原爆により校舎中破し、訓導・児童死傷
20.09.15 各学年1学級編成で開校
22.04.01 広島師範学校男子部附属小学校と改称
23.05.11 保護者団総会によりPTA結成
24.05.31 広島大学広島師範学校附属小学校と改称
24.06.17 山の学習旅行(6年)開始
26.04.01 広島大学教育学部附属東雲小学校と改称。帽章・徽章を改定
29.06.01 放送教育を実施
31.10.31 海の学習旅行(5年)開始
36.10.02 養護学級を設置
38.03.31 「研究紀要」第1集発行
39.05.15 夏の制服・制帽を制定
39.06.10 東雲プール新設
39.07.24 「しののめ教育」第1号発刊
40.10.30 創立90周年記念式典挙行
44.08.08 新校舎起工式
45.04.01 新校舎落成・移転
45.11.28 新校舎落成記念式典挙行
47.04.01 複式学級開設・同年複式校舎落成
47.06.10 教育実践シリーズ第1巻を文理書院より発刊
48.02.01 米飯給食開始
49.03.10 天文台完成
49.05.03 吹奏楽団初演奏
50.10.30 創立百周年記念式典挙行・校歌制定
51.12.25 国立大学附属学校教育研究協議会開催
52.03.31 東雲ホール落成 「東雲附小百年史」刊行
52.04.10 文部省より昭和52・53年度「教育課程一般」の研究校に指定
53.06.17 広島大学附属東雲小学校と改称
53.12.01 文部省指定「教育課程一般」の研究発表会、教育機関誌「初等教育」創刊
54.11.16 博報賞(国語教育部門)受賞
56.04.13 文部省より昭和56・57年度教育課程実施状況調査研究協力校に指定
56.10.30 養護学級創設20周年記念式典を挙行
57. 5.25 総合学習読本「道後山」編集
57.10.30 複式学級創設10周年記念式典を挙行
57.10.30 養護学級創設20年史刊行
58.06.10 複式学級創設10周年史刊行
61.03.25 研究紀要復刻第1号発行
62.07.31 「初等教育」50号発行

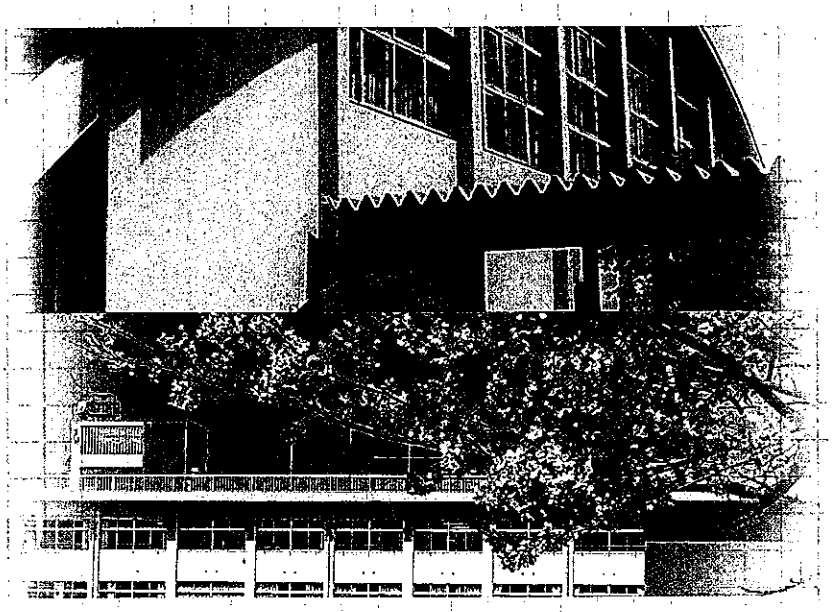
平成 元.10.26 放送教育研究会全国大会会場校
03.06.01 広島大学附属東雲小学校同窓会会員名簿刊行
06.06.09 第100回東雲教育研究会開催
06.11.30 新プール完成
07.10.29 創立120周年記念式典を挙行
08.03.29 コンピュータ教室完成
11.04.05 児童用昇降口完成
12.03.31 各教室にコンピュータ設置
12.10.07 教育後援会発足
14.12.09 養護学級創設40周年・複式学級創設30周年記念式典を挙行
17.10.29 創立130周年記念式典を挙行
18.10.01 各教室にエアコン設置

PTA組織

資料９

学校案内

平成24年度



広島大学

広島大学附属東雲中学校

Hiroshima University Shinonome Junior High School

〒734-0022　広島市南区東雲三丁目1番33号
TEL(082)890-5222　FAX(082)890-5226
E-mail jhshino@hiroshima-u.ac.jp
URL http://home.hiroshima-u.ac.jp/jhshino

程

目)　　特別支援学級(3組)

教科 ＼ 学年	第1学年	第2・3学年
国　語	70	
数　学	70	
音　楽	35	
美　術	70	
保健体育	70	
コミュニケーション・英語	35	
特別活動	55	35
職業生活	175	
自立活動	175	
生活単元学習	210	
総合的な学習の時間	50	70
計	1015	

程

清掃	13:20 ▼ 13:35
5時間目	13:40 ▼ 14:30
6時間目	14:40 ▼ 15:30
SHR	15:35 ▼ 15:50
放課後活動	15:50 ▼ 16:45 (17:50)

月1～5校時　(火)～(金)1～6校時

下校　16:55（夏季は18:00）

徒数

(平成24年5月1日現在)

第2学年		第3学年		
2組	3組	1組	2組	3組
19	4	19	19	4
20	3	21	21	4
39	7	40	40	8

員数

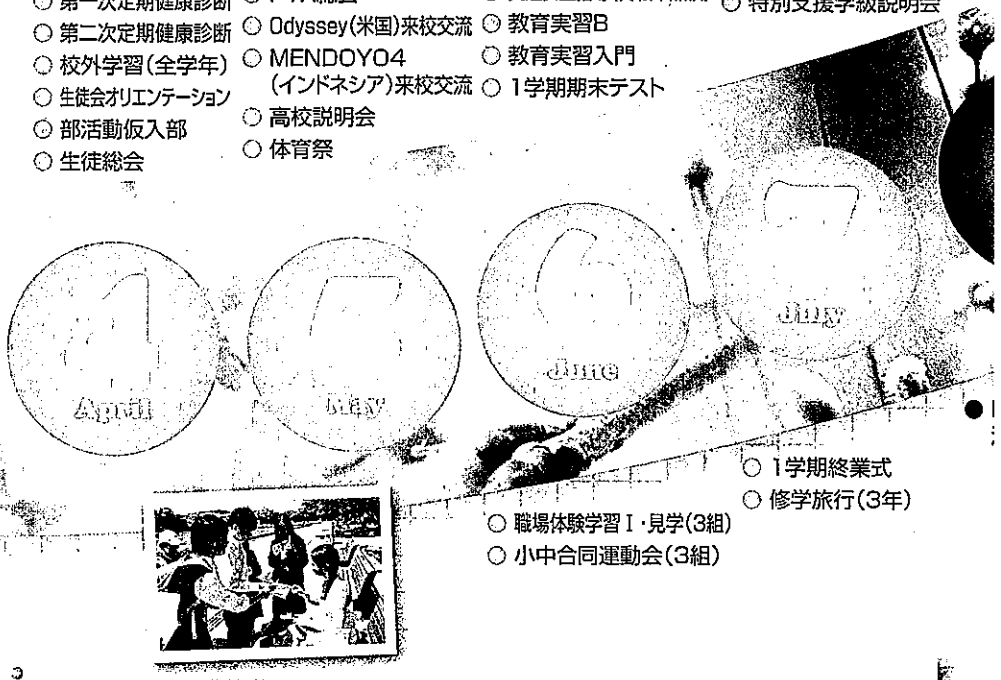
(平成24年5月1日現在)

ALT	講師・T.T.	事務	学校医 学校薬剤師	PTA事務
1	10	7	4	2

しののめ学び文化

落ち着きがあるなかでエネルギーが感じられる学校生活

- ○ 就任式
- ○ 1学期始業式
- ○ 入学式
- ○ 第一次定期健康診断
- ○ 第二次定期健康診断
- ○ 校外学習(全学年)
- ○ 生徒会オリエンテーション
- ○ 部活動仮入部
- ○ 生徒総会
- ○ 学校説明会（東雲小対象）
- ○ 災害対策訓練
- ○ PTA総会
- ○ Odyssey(米国)来校交流
- ○ MENDOYO4（インドネシア）来校交流
- ○ 高校説明会
- ○ 体育祭
- ○ 校内模試(3年)
- ○ 交通安全指導(自転車点検)
- ○ 教育実習B
- ○ 教育実習入門
- ○ 1学期期末テスト
- ○ 特別支援学級説明会



- ○ 職場体験学習Ⅰ・見学(3組)
- ○ 小中合同運動会(3組)
- ○ 1学期終業式
- ○ 修学旅行(3年)

沿　革

1947(昭和22)年	4月15日	広島師範学校男子部附属中学校として発足
1948(昭和23)年	12月11日	校舎落成式
1951(昭和26)年	4月　1日	校名「広島大学教育学部附属東雲中学校」に改名
1963(昭和38)年	4月10日	養護学級新設
1968(昭和43)年	5月13日	明珠会を解散し,中学校PTAを結成
1978(昭和53)年	6月17日	校名「広島大学附属東雲中学校」に改名
1986(昭和61)年	4月　1日	東雲憲章制定・施行
1995(平成　7)年	6月25日	新プール竣工記念祝典挙行
1997(平成　9)年	11月24日	創立50周年記念式挙行
2001(平成13)年	7月　8日	Exploris Middle Schoolとの姉妹校提携
2007(平成19)年	4月15日	創立60周年記念式挙行
2010(平成22)年	5月　6日	SMP NEGERI 4 MENDOYO Jembranaとの姉妹校提携
2010(平成22)年	5月13日	Odyssey Schoolとの姉妹校提携

東雲小・中学校について
学校長挨拶
入学のご案内
研究大会のご案内

学校紹介
東雲小学校
東雲中学校

交通のご案内
研究物のご案内
お問い合わせ

中学校沿革

沿 革

1947(昭和22)年4月15日	広島師範学校男子部附属中学校として発足
1948(昭和23)年5月11日	保護者団総会ならびにPTA結成式
1948(昭和23)年12月11日	校舎落成式
1949(昭和24)年5月31日	校名「広島大学広島師範学校附属中学校」に改名
1951(昭和26)年4月1日	校名「広島大学教育学部附属東雲中学校」に改名
1953(昭和28)年6月29日	PTAを明珠会と改称
1954(昭和29)年9月20日	校舎改修完了，教科教室および研究室の配置完了
1962(昭和37)年1月27日	北運動場完成記念祝賀式挙行
1963(昭和38)年4月10日	養護学級新設
1964(昭和39)年6月10日	学内プール竣工式挙行
1967(昭和42)年4月1日	小中学校長は兼任をとき，各専任となる
1967(昭和42)年10月28日	創立20周年記念式挙行
1968(昭和43)年5月13日	明珠会を解散し，中学校PTAを結成
1969(昭和44)年12月17日	火災発生，校舎の一部を焼失
1970(昭和45)年4月4日	新校舎地鎮祭挙行
1971(昭和46)年1月10日	新校舎落成式挙行
1977(昭和52)年4月15日	創立30周年記念式挙行
1978(昭和53)年6月17日	大学・学部改組に伴い校名「広島大学附属東雲中学校」に改名
1983(昭和58)年11月12日	養護学級創立20周年記念式挙行
1986(昭和61)年4月1日	東雲憲章制定・施行
1987(昭和62)年10月18日	創立40周年記念式挙行
1994(平成6)年11月30日	新プール竣工
1995(平成7)年6月25日	新プール竣工記念祝典挙行
1997(平成9)年11月24日	創立50周年記念式挙行
2002(平成14)年8月23日	Exploris Middle School(米国)と姉妹校締結
2002(平成14)年12月9日	養護学級創立40周年記念式挙行
2003(平成15)年8月23日	Exploris Middle Schoolとの生徒間渡米交流開始
2004(平成16)年6月21日	Exploris Middle Schoolとの生徒間来校交流開始
2007(平成19)年4月15日	創立60周年記念式挙行
2010(平成22)年5月6日	MENDOYO4(インドネシア)と姉妹校締結　生徒間来校交流開始
2010(平成22)年5月16日	Odyssey School(米国)と姉妹校締結　生徒間来校交流開始
2010(平成22)年11月26日	PTA文部科学大臣表彰
2011(平成23)年8月29日	Odyssey School(米国)との生徒間渡米交流開始

>広島大学公式ウェブサイトについて(サイトポリシー)　>プライバシーポリシー

Copyright(C) 2003-2012 広島大学
＊電話番号・所在地
<編集>:広島大学附属東雲小学校・中学校

資料１０

平成２４年度

学校園要覧

文部科学省研究開発学校指定校(第１年次)

Mihara Educational Institution

attached to
Hiroshima University

幼小中一貫教育学校園

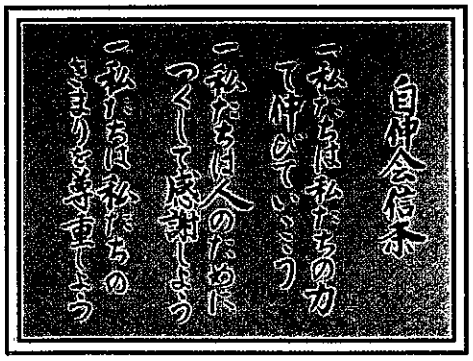
広島大学附属三原幼稚園

広島大学附属三原小学校

広島大学附属三原中学校

沿　革

1909	明治42	広島県三原女子師範学校が創立される。
1911	明治44	附属小学校を設置する。
1913	大正 2	附属幼稚園を設置する。
1924	大正13	自伸会を設置して，自伸会信条を制定(8月)する。
1926	大正15	創立15周年記念式を挙げる。この頃より保護者の了解により教育後援会を設置する。
1928	昭和 3	校歌を制定する。
1934	昭和 9	広島県より学校給食試行の依頼を受け，以後3年間継続して研究実践を行う。(小)
1944	昭和19	保護者有志の寄付により景雲塾が完成する。合宿訓練が始まる。
1947	昭和22	学制改革とともに附属小学校と改称する。新たに広島師範学校女子部附属中学校を設置する。
1949	昭和24	広島師範学校女子部に広島大学教育学部三原分校（男女共学二年制，幼小中学校教員育成）を創立する。
1950	昭和25	第1回フレーベル祭を幼稚園にて開催する。
1951	昭和26	広島師範学校女子部が廃校となり，広島大学教育学部附属三原小学校・中学校と改称する。 広島大学教育学部附属三原学校園創立40周年記念式を挙げる。 保護者寄付により水道施設・廊下・校門の改築を完成する。
1957	昭和32	小学生が映画「らくがき黒板」(新藤兼人監督脚本)に出演する。
1961	昭和36	広島大学教育学部附属三原学校園創立50周年記念式を挙げる。記念誌、同窓会名簿を発行する。
1965	昭和40	附属三原幼・小・中校舎をすべて竣工する。プールを竣工する。
1966	昭和41	広島大学教育学部附属三原幼稚園と改称する。岩石園の造成完了する。
1971	昭和46	広島大学教育学部附属三原学校園創立60周年記念式を挙げる。記念誌、同窓会名簿を発行する。
1972	昭和47	幼稚園が三年課程認可，3学級となる。
1976	昭和51	教育研究所・教育実習生宿泊施設(景雲ハウス)新築工事が完了。 茶室「景露庵」の第一期改築工事が完了する。
1977	昭和52	茶室庭園を整備する。
1978	昭和53	広島大学直属の附属学校部となり広島大学附属三原幼稚園・小学校・中学校と改称する。 陶芸場・動物舎を新築する。
1981	昭和56	広島大学附属三原学校園創立70周年記念式を挙げる。記念誌、同窓会名簿を発行する。 教育研究所「景雲ハウス」の3階を増築する。
1982	昭和57	小・中学校共用校舎を竣工する。
1984	昭和59	文部省より三カ年間国立大学・学部附属学校教育方法等改善に関する研究の指定を受ける。
1985	昭和60	第1回全国国立大学附属学校園中国・九州地区PTA研修会を本学校園で開催する。
1986	昭和61	広島大学附属三原学校園創立75周年記念式を挙げる。記念誌，同窓会名簿を発行する。 同窓会の寄付による歴史民具資料館を竣工する。
1987	昭和62	文部省より三カ年間「体験を通じた学習方法の導入」による教育方法の改善に関する調査研究」の委託を受ける。 中学校創立40周年記念式を挙げる。(大原宗徳氏講演)
1989	平成元年	小学生が映画「千羽づる」(神山征二郎監督)に友情出演する。
1991	平成3	広島大学附属三原学校園80周年記念式を挙げる。記念誌、同窓会名簿を発行する。
1995	平成 7	幼・小・中のLAN(コンピュータネットワーク)を設置する。
1996	平成8	広島大学附属三原学校園創立85周年・附属三原中学校創立50周年記念式を挙げる。
1997	平成 9	原田康夫学長と三原やっさまつりに「オール附属三原チーム」として参加。
1998	平成10	幼小中一貫教育研究会を始める。
2001	平成13	広島大学附属三原学校園創立90周年。広島交響楽団を迎えて記念式を挙げる。
2003	平成15	文部科学省研究開発学校の指定を受ける。
2006	平成18	文部科学省研究開発学校の継続指定を受ける。
2009	平成21	映画「らくがき黒板」完成50周年記念の石碑を設置する。 文部科学省より研究開発学校(延長)に指定される。
2010	平成22	教育実習研修施設「景雲ハウス」内部改修工事完了。
2011	平成23	創立百周年記念行事として広島森林公園での園児による記念植樹などを行う。 小学校東側トイレ改修工事完了。 創立百周年記念行事として三原芸術文化センター「ポポロ」で記念セレモニーと広島交響楽団音楽鑑賞教室を行う。 小学校内装工事完了。 永遠(とわ)の庭完成。 創立百周年記念式典挙行。
2012	平成24	文部科学省研究開発学校指定校の指定を受ける。



広島大学附属三原校校歌

作詞　葛原　しげる
作曲　小松　耕輔
（昭和3年制定）

筆影　米田　桜山
山はさ緑こ緑の
高き希望の色かえず
自ら伸びよと諭すなり
うれし　我らの学舎うれし

景雲台の明暮れに
海の眺めの妙なるを
友に示して賞でさすは
人にぞ尽くさん誓いなる
うれし　我らの学舎うれし

阿久原川も沼田川も
絶えず海へと注ぎては
道をたがうることもなく
おのれのきまり守るなり
うれし　我らの学舎うれし

資料１１

学校案内 2012

広島大学附属福山中・高等学校

Fukuyama Jr. and Sr. High School attached to Hiroshima University

www.fukuyama.hiroshima-u.ac.jp/

1．本校の沿革

(1) 広島女子高等師範学校附属中学校・高等学校沿革

1945年4月　山中高等女学校〔1887年（明20）12月創立の広島高等女学校が1919年（大8）9月改称〕が国に移管され，広島市千田町に広島女子高等師範学校附属山中高等女学校成立

1945年12月　原爆被災後，賀茂郡安浦町海兵団跡に移転（現在の呉市安浦町）

1947年4月　学制改革により，附属中学校成立

1948年4月　学制改革により，附属高等学校成立

1949年5月　広島大学設置により，同大学に包括

(2) 広島青年師範学校附属中学校・高等学校沿革

1945年4月　高田郡吉田町他4か村学校組合立青年学校及び福山実践女学校を広島青年師範学校附属青年学校として移管

1947年4月　附属青年学校を県へ移管，新たに附属中学校を設置

1947年7月　福山市立実業学校及び福山市立実践女学校の一部を国に移管，新たに広島青年師範学校附属青年学校及び広島青年師範学校代用附属青年学校を設置

1948年4月　学制改革により，附属高等学校成立

1949年5月　広島大学設置により，同大学に包括

(3) 合併以後

1950年4月　広島女子高等師範学校附属中学校・高等学校の一部が広島県福山市緑町2番17号に移転して，新一年生を募集し，青年師範学校附属中学校・高等学校と合併して開校

1951年4月　広島大学教育学部附属福山中学校成立

1952年4月　広島大学教育学部附属福山高等学校成立

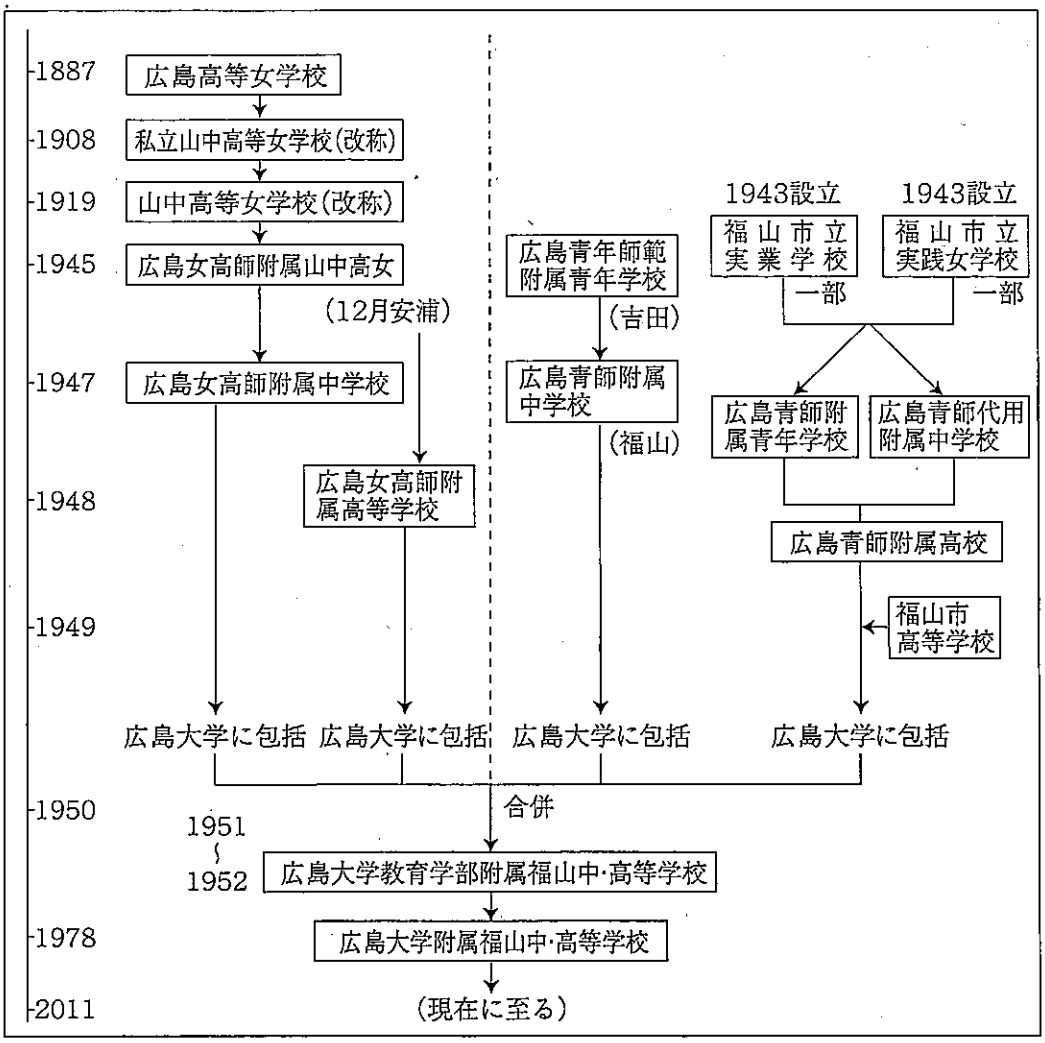
1973年4月　広島県福山市春日町吉田に移転，開校

1978年6月　広島大学改組に伴い，広島大学附属福山中・高等学校と改称

2004年4月　国立広島大学は国立大学法人広島大学となる。

※　歴代校長　（広島大学教育学部附属福山中学校成立以後）

松原郁二　1951・4～1954・3
池田計三　1954・4～1957・3
細田　鼎　1957・4～1969・3
牛尾春夫　1969・4～1972・3
藤井茂美　1972・4～1974・3
松田芳昭　1974・4～1976・3
高部岩雄　1976・4～1980・3
福田昌作　1980・4～1982・3
浮橋康彦　1982・4～1986・3
三戸　昭　1986・4～1990・3
青野春水　1990・4～1992・3
千成俊夫　1992・4～1994・3
頼永正孝　1994・4～1996・3
原田　彰　1996・4～1998・3
西村清巳　1998・4～2002・3
角屋重樹　2002・4～2006・3
町　博光　2006・4～2010・3
岩崎秀樹　2010・4～



(4) 学校教育環境の整備など

1950年　教育助成会設立

1954年11月　校章・校歌を制定

1955年4月　高校部・中学部・研究部・庶務部の4部制をとる。

1956年2月　校旗（中・高）制定

1959年4月　高校部・中学部・研究部の3部制をとる。

1959年11月　創立10周年記念式典

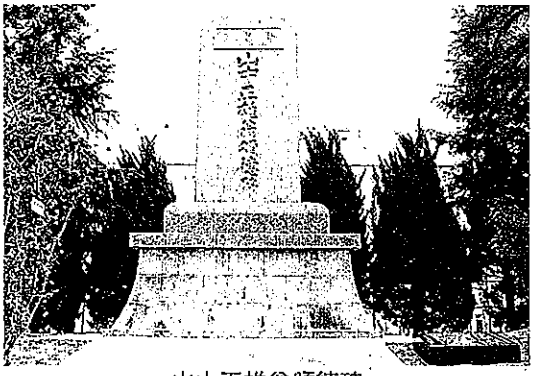
1962年4月　6か年一貫教育をスタートさせる。
学校の運営機構を改正，校内では中学校・高等学校の区分を廃し，教育第一部（1・2学年），教育第二部（3・4学年），教育第三部（5・6学年）および研究部の4部制をとる。

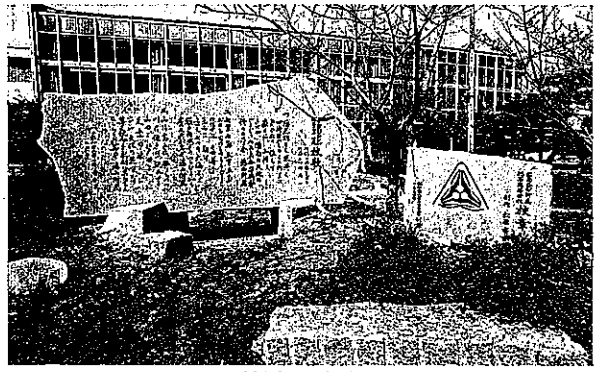
1966年4月　日課時限のベルによる報知を廃止。ベルもチャイムも鳴らさない学校にする。

1975年4月　3教育部制を廃止し，1～6学年を区別しない一貫した組織にする。
第2学年と第5学年以外の各学年の各学級（HR）の人数を約20人とし学級総数を40とした。

1976年5月　教生宿舎（通称：創立25周年記念館）完成
創立25周年記念式典
バラ園完成

1979年４月　学校の運営機構を改正・20人学級（ＨＲ）を廃止し，すべて１学級（ＨＲ）約45人とし学級総数を24とする。
1985年３月　教育実習生宿泊施設（通称：オリーブ）完成
1987年　校内万葉植物園完成
1988年４月　運営機構を改正し，教務部・研究部・指導部の３部制をとる。
1990年11月　創立40周年記念式典
1995年４月　１学級定員を40名とする。
1995年９月　インターネットホームページ開設
1996年10月　山中正雄翁頌徳碑移設
1997年９月　「広島大学附属福山の中高一貫教育（自由な校風　ゆとりのある学校をめざして）」の冊子発行
1999年６月　「福山附属植物物語」発行
1999年11月　創立50周年記念式典
2000年11月　教育後援会設立
2001年３月　「続福山附属植物物語」発行
2002年１月　「万葉植物物語」を中国新聞社から発行
2002年３月　情報教育センター（通称：ローズ）完成
2002年３月　「中学校・高等学校　教科とリンクする『総合的な学習』のデザインと評価」を東洋館出版社から発行
2002年４月　進路指導情報センター完成
2003年４月　運営機構を改正し，教務部・研究部・進路指導部・生徒指導部の４部制をとる。
2004年11月　オリーブ園完成「オリーブの環」開始
2006年７月　ホームルーム教室全室へのエアコン設置完了
2007年２月　校内高速ネットワークシステム完成
2007年２月　「科学的な思考力を育むカリキュラムと教材開発　特色ある中学校・高等学校づくり」を東洋館出版社から発行
2008年１月　情報処理演習室　機器の更新
2008年３月　Ｂ・Ｃ棟の耐震補強に伴う改修完了
2009年３月　Ａ棟の耐震補強に伴う大型改修完了
2009年６月　情報語学演習室　機器の更新
2010年２月　創立60周年記念式典
2010年３月　校内テレビ機器　地デジ対応完了
2012年４月　情報教育センター　図書館システムの更新


山中正雄翁頌徳碑


校歌の歌碑

園要覧

資料12

ようこそ森のようちえんへ

広島大学附属幼稚園

沿革の概要

昭和 41. 4　広島大学教育学部附属幼年教育研究施設（以下幼研施設と略）創設に伴い、その研究園として広島大学教育学部附属幼稚園の設置認可。

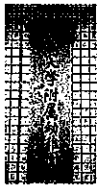
旧山中高等女学校
山中記念館（仮校舎）

開園
(S41.5)

昭和 41. 5　旧山中高等女学校、山中記念館を仮園舎として開園。教育学部長三好稔教授が園長を併任。（２年保育課程）

昭和 42. 5　広島市中区千田町２丁目 5-25 に、付属幼稚園舎を１階に、幼研施設を２階とする建物が完成。（敷地は旧山中高等女学校代表者山中トシ氏寄贈）

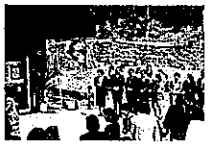
昭和 53. 6　広島大学附属学校部の創設に伴い、広島大学附属幼稚園と改称。


広島大学附属学校部の
創設 (S53.6)

平成 2. 3　東広島市西条町大字下見に新園舎を新築し移転。

平成 2. 4　新園舎で保育。（募集区域は東広島市全域とする）

平成 5. 4　３歳児学級新設。（３年保育課程）

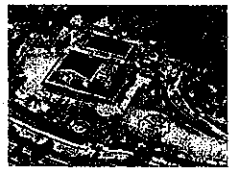

３歳児学級新設祝賀会 (H5.4)

平成 11.10　太陽光発電設備設置。

平成 14.12　ツリーハウス・ままごとハウス設置。

平成 16. 4　国立広島大学が法人化になり、国立大学法人広島大学附属幼稚園となる。

平成 18. 3　創立 40 周年記念誌「附幼 40 年のあゆみ」を刊行。


創立 40 周年記念事業

平成 19. 3　ビオトープ設置。

研究のあゆみ

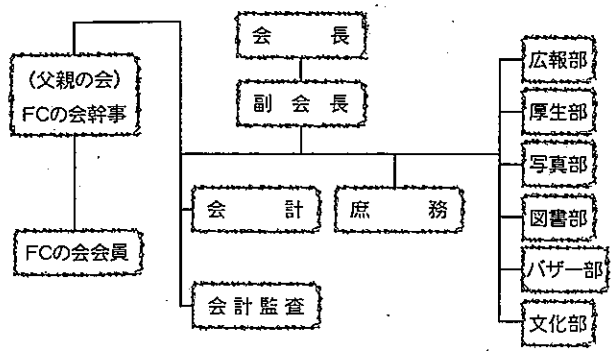
幼児教育研究会

昭和 51 ～ 52 年	集団保育による社会性の育成
昭和 53 ～ 54 年	幼児の認識とその発達
昭和 55 ～ 57 年	幼児の運動保育
昭和 58 ～ 59 年	共感性と愛他的行為を育てる保育活動
昭和 60 ～ 61 年	自ら考え行為する子どもを育てる保育活動
昭和 62 ～平成 1 年	豊かなイメージに支えられた遊びの展開
平成 3 ～ 6 年	幼児一人ひとりののびやかな自己実現を支える保育
平成 7 年	幼児の自己確立の過程を見つめる
平成 8 年	幼児の自己実現を支える教育課程の編成
平成 9 ～ 10 年	幼児と自然とのかかわりを見つめる
平成 11 年	子どもにとっての保育者の意味を探る
平成 12 年	人間関係の深まりの過程を探る
平成 13 ～ 15 年	人とのかかわりを深める援助の方向性を探る
平成 16 ～ 17 年	自己の力を発揮し、たくましく生きる子どもを育む教育課程の創造
平成 18 ～ 20 年	幼児の自然体験について考える

学部・附属共同研究

平成 10 年	幼児の自然体験と心情世界
平成 11 年	保育観の意識化とそれに果たすカンファレンスの役割
平成 12 年	幼稚園の教育課程はどのようにとらえられているか
平成 13 年	コミュニケーションに課題のある子どもの人間関係の構築に関する研究（1）
平成 14 年	コミュニケーションに課題のある幼児の人間関係の構築に関する研究（2）
平成 15 年	幼稚園における統合保育の実践と保育カンファレンスの融合
平成 16 年	教育課程の編成のありかた（Ⅰ） 幼少連携を志向するプロジェクト学習の開発・試行に関する研究 幼児の道徳性の発達に与える「かかわり」の影響についての研究
平成 17 年	教育課程編成のあり方（Ⅱ） 幼児の道徳的判断力のめばえを育てる保育者の支援に関する研究 聴覚障害のある幼児のコミュニケーション拡大のための実践的研究
平成 18 年	聴覚障害のある幼児の就学に向けた取り組みに関する実践的研究 幼少教育課程の編成のありかた 科学的思考を育成するための幼小連携の在り方について 幼児期における自然体験の効果に関する実証的研究
平成 19 年	幼稚園から小学校への科学的思考力育成のための支援方策 幼児の運動能力の発達と保育環境との関連に関する研究 「抱きしめる」ことが親の子に対するイメージと子どもの行動に与える影響に関する研究

木いちごPTA組織



広島大学附属幼稚園

〒739-0045
東広島市鏡山北333-2
TEL 082-424-6190
FAX 082-424-5528
URL http://home.hiroshima-u.ac.jp/yochien/
E-mail yochien@hiroshima-u.ac.jp
HIROSHIMA UNIVERSITY